女學雜誌

一册六錢

各土曜日發兌

第百九拾壹號

當府内無郵税

郵税五厘

Digitized by Google

Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 191. December 14th, 1889.

第百九十一號目錄

EDITORIAL :—Account Keeping.

LEADING ARTICLE :—Ambition. (T. Kunikida.)

CRITICAL NOTES :—Different Styles of Modern Novel Writings.

MISCELLANEOUS :—A Review of Life of Napoleon. Life of Soldiers. Fashionable Literature. Hair-pins. Trees of Good and Evil. Natural Beauty. Causes of Near-sightedness. How to prevent Sea-sickness. Precautions against Typhoid Fever.

NOVEL :—"The Italian Beauty" (*Continued*).

CONTRIBUTED ARTICLE :—On "The Popular Kōmon Story." (Kōu Sanjin.)

OPEN LETTER :—A Letter to the Editor.

NOTES ON THE NEWEST ISSUES.

NOTES AND NEWS.

CONCERNING WOMEN.

SINCE OUR LAST ISSUE.

社説　勘定論

論説　アンビジョン（野望論）（國木田哲夫）

批評　今の小説界文派

雜録　奈破翁の言行錄を讀みて其一二を評す○軍人の生命○文學上の流行○花かんざし（高橋おろか）○善惡の木○自然の美○近眼の元○船暈の豫防○腸チフスに就ての心得（醫學士三島通良）

小説　伊太利の佳人第四回

寄書　俗説美談黄門記に就きて（耕雨散人）

開書　記者に書を寄せて精神的姉弟の媒ちを望む○交詢

雜録　文學極衰○濁事清報○清濁如何○彼の狹隘なる政黨論○廢娼會○おいらんの給○女性速記○自由主義○二疊敷五人座臥す

女報　下賜○華族女學校官制○御産所引移り○乘馬技術御一覽○馬術練習所○福田會慈愛部の啓建式○横濱禁會○豊田芙雄女○赤十字

附録　公娼の害（島田三郎）○廢娼の急務（植木枝盛）

Women in Japan.

(1) *Messrs. Emori Ueki and Samuro Shimada, the former a most prominent member of the Radical Party, and the latter, one of the most conspicuous leaders of the Kaishin-to, delivered long and impressive speeches on the necessity of Abolition of Prostitution at the Kosei Kan, on the 9th inst. to a very large audience. The meeting was started by the members of the Tokyo Ladies' Christian Temperance Association, and of the Ladies' White Ribbon Association.*

A thousand copies each of two pamphlets, "Abolition of Prostitution" by Mr. N. Ban and the "Total Abolition of Brothels" by Y. Iwamoto, were distributed among the audience. We print the speeches in full.

(2) *After the speeches were delivered in the Kosei Kan on the 9th inst., it was announced that certain gentlemen are going to form an Alliance for Abolition of Prostitution, having the following provision ; viz :—*

1. *We, the members of this Alliance aim for the total Abolition of Prostitution.*

2. *The name of this Alliance will be "The Alliance for the Abolition of Prostitution.*

3. *We, the members of this Alliance, promise to do our best for the attainment of the object of this Alliance.*

Those, who are in sympathy with the aim of this Alliance, will, we hope, join it by sending their names and addresses to the office of the Jogaku Zasshi, Fujimi-cho Nichome, Kojimachi, Tokyo. As to what course of action the alliance will take, will be decided in future. The members are daily increasing.

(3) *Two lady short-hand writers wrote down the speeches at the Kosei Kan on the 9th. This is the first time the Japanese women appeared in a public meeting in the character of short-hand writers. As we had long been looking for lady short-hand writers, we do welcome them heartily.*

(4) *Our contemporaries, the Yomiuri Shimbun and the Tokyo Shimpo have commenced to discuss the subject of Abolition of Prostitution.*

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

善悪の木

Digitized by Google

Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

女學雜誌 第百九十一號
明治二十二年十二月十四日發兌

社説

○勘定論

櫻さける春の朝た、月さゆる秋の宵、たゞ昨日今日と思ひける中に早くも年の暮となれり。年頭曉の鐘に目さめて一年の計事今日に在りと決心したる、當初元日の盟ひ猶ほ有々と見ゆれど、其事未だ半も成就せざるに、今年忽卒として過逝き、一歳の吾が友人既に永く失せ去らんと欲す。

時とは抑そも何如なるものぞ、視て見へず、聽きて聞えず、捉へんと欲して捉うる能わず、空々漠々として在れども無きが如く、無きが如くにして亦實在する如し、永遠より永遠に渉り、流るれども流れ絶ゆるとなし、其行く所ろを見れば日々に去るあり、然れども其來る所ろを見れば永世衰ふるとなし、時は果して連續したる長帶の如きか、然も其初めは無始より始まり、其終りは無終に終る、吾人蜉蝣の命を得て其の一小點に棲居す、揚乎として大言する所ろのもの終に其厘毫を長短するに足らず。

時は夫れ如此くに廣大なるものなれど、之に年月日時を割付くるときは、時は亦た極めて短く最と小さきものともなるあり、二十四時を以て一晝夜とし、一晝夜三百六十五日を以て一年となし、一年を六七十回重ねたるものを以て人の一生となす、一生の畢ると瞬たく間にて昨日の青年未だ久しからずして忽ち白頭翁となる、人世の一代猶ほ長きを思わず、況してや一年と云ひ、一月と云ひ、一日と云ひ、一時と云ひ、一分一秒と云ふもの丶如きは、其經過すると亦何物よりも早し、但し其經過するとの早き時なるものも亦た彼の空漠廣大なる時なるもの丶一部分に過ぎず、之を大觀すれば其行くや恰かも動かざる如し、之を細視すれば其去るや電光石火よりも早し。左れば物を綿密に考ふるは先づ之を區劃するより善きはなし、區劃して之を勘定すれば其の實相の感じ得らる丶と極めて切なり。

左れば人は時々特更に局促し、其小部分を細視して、綿密に勘定するを貴とす、勘定は一種の明鏡なり、其面に勤勉、怠惰、榮枯得喪などの現況を映して人に其身上の實際を認識せしむ、之によりて其行の善惡何如んを悟り、亦之によりて其業の利害何如んを悟り、亦之によりて其行狀事業の何如に世に遇せらる丶やを悟とを得、勘定とは算盤にて割出のみの謂

にあらず、聖人が日に三たび省みるも勘定なり、天國に於て應報あるも勘定なり、善者の榮え惡者の滅するも勘定あり、大凡そ義の照らす所ろ何くにか勘定なからん、勘定の現わるゝ所ろ何くにか賞罰利害なからん、勘定は夫れ道を立て、德を進め、一身を導くの明鏡なるか。

文野賢愚の別は勘定如何に在り

之を以て勘定の明かなるほど國榮え身賢こし、勘定の甚はだ明らかならざるは即はち國家未だ開けざるの證なり、聖人は細かに天の勘定を知れり之を以て惡を犯すことなし、賢者は能く事物の勘定を知れり之を以て一身を危うくすることなし、文明國は出入進退整然として勘定に適ふ毫末も亂りに徒行することなし、蠻民は只だ時に隨つて暴動し、初より進む所ろを知らず、終に至る迄で止まる所ろを知らず、止まつて亦自ら吟味することを知らず、即はち人の尤とも勘定せざるもの也。

我國人

悲しひ哉我國人未だ勘定に慣れず、寧ろ勘定に慣れざるを以て士君子の如くに心得るものあり、不處存以ての外のこと也、昔し士らいは錢の事を言わざるを以て非常の榮譽と自慢し、生來二一天作の五聲を發せずとて格外に高尚なりと思たり、其氣自づから農工商に迄で傳染し、苟くも上流に位ひする者は皆勘定に無頓着なるものと假定し、たとひ上流人にあらずとも上流人たらんことを心掛るものは漸やく勘定の事を忘るゝやうに修業したり、之れ何等の奇談なるぞ。

此氣風久しく熟して未だ容易く除く可らず、今日百姓の身分を以て其一年の取實何程、利益何程、資金に對する利益何分に相當するやを辨知せざるもの滔々多し。何んぞ只だ農夫のみならん、彼の利に走る尤も鋭敏なる商人にてすら、其勘定する所ろは僅かに出入差引の勘定に過ぎず、細かに資金を算し、勞力を算し、時日を算し、其益の資金に對する分割何程、其分割の他營業に對する多少何如んを云へる如きことには殆んど全く無頓着なり、嗚呼商人尙然り、彼の書生が無勘定なること、政治家が無計算なること、堂々たる當路有識の人にして尙ほ國家の經濟に悉とく不案内なる如きは、恐らく尤もの事にてあるなるべし。

一 日本國の現況

之を勘定して見れば實に意外なることの多きもの也、只だ慢然として空想する間は、左程とも思わざれども、一と度び之に細かく當り、密に吟味し來るときは、眼この觸るゝ處ろ悉く

寒心嗟歎の種にあらぬはなし。

今ま其併證として、日本國の大勢に付き辨ずる所ろあらん、第八統計年鑑即はち最も新らしき統計表の確實なるものに付きて之を考ふるに、日本國の人口は男女合して三千九百〇六万九千六百九十一人とあり、彼の英國米國にも劣らざる多數の人口にて、同胞兄弟の如此く多きは實に心太きとなるが、此中ち、

娼妓	二七、五五九人	備荒貯蓄にて救助せられし人	二〇一、三八三人
藝妓	一〇、三二六	官金救濟人員	一五、一九九
監獄人員	六四、〇五〇	地方稅及區町村費にて同前	二三、七九八
酒造	一五、四一二	東京府養育院	一四二
煙草人	三六、〇四八	監獄官員	八、七三七
貸座敷及引手茶屋	七、三七六	警察官員	二八、五五〇
棄兒	五、七八〇	裁判所官員	五、〇五九
東京府癲狂院	一八五	海陸軍人軍屬	二三一、四二四

右表に擧たる如き、全く人の厄介に成居る者、亦は人を害するもの、若くは此惡人ある爲に止を得ず勤務する者、要するに生產的に世の役を爲さゞる人々、之丈にても既に六十七万餘人あり。然るに之よりも更に大なるは、全國人員中、二十歳以下未丁年の人、即はち子供にてあるもの、又は修業中、部屋住ひ、スネかぢり等にてあるものを數ふるに、二六四〇九一六二あり、又六十年以上の老人、則はち東洋隱居國の習慣として殆んど物の用に立ぬ人々を算するに、三三七九七五〇あり、以上老年と少年とを合すれば二千九百七十八万八千九百十二人となる、之を總人員三千九百餘万の中より引去る時は殘る所ろ僅に九百二十八万〇七百七十九人なり、此壯年の人は悉く健全且つ善良の人物なりとするも、日本は實に九百餘万の人民を以て生計するの國也。然るに內國債外國債は合して三億〇七百〇七万七千五百二十五圓なるが故に、之を總人口に悉とく割付くるも一人に付七圓八十五錢に當り、之を彼の壯年にのみ割當る時は一人に付三百三十圓餘に當る、嗚呼赤子一人にても國の爲めに七八圓の借金を擔へり、若し壯年のみに任すれば、何人も一人にて三百三十餘圓の借金を負へり、日本國中何人か借財なきものある。

又た金の遣ひ道を考ふるに、

海陸軍の入費には	二千三百七十九万七千四百廿圓
警察と監獄とには	九百廿五万〇八百二十五圓
盜難に罹りし金高	百七十五万千八百卅五圓

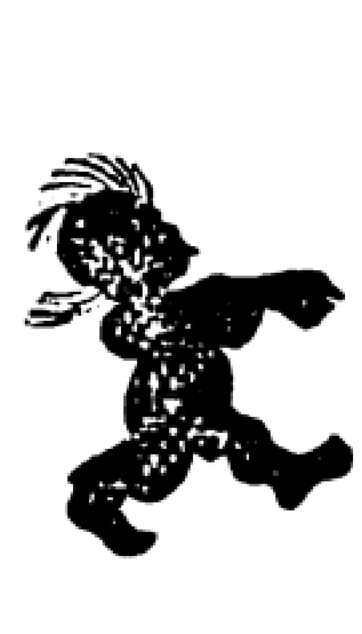
Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

酒　四千六百五十六万八千二〇五圓
煙草稅　百五十九万〇三百五六圓
賦金　六十九万九千三八八圓
備荒貯蓄救助には　五十八万二千九六〇圓
窮民救濟の爲には　十七万三千三五四圓
棄兒養育の爲には　一万九千四五九圓
東京養育院の爲には　一万三千六三四圓

大畧如此し、其他非職休職の官員に給する月給は三四六八四にて棄兒養育の爲の金は其半額に過ぎず、外國より輸入する兵器火藥の類は八四五七五九にて學術用具及び書籍の輸入すると其十五分の一に足らず、陸海軍の入費は二千三百餘万圓にして文部省の出費は其廿三分の一に及ばず、梅毒檢查並に業躰取締の入費は一四八三四〇にして官費外國留學生の入費は其十四分の一に足らず、恐れ多くも我が皇室費は三百万圓にして酒造稅の四分一よりも少なく、帝國大學の入用は三三五〇〇六、高等中學校七校の入用二九一一六四圓、以上二用を合して六十万圓に及ばざるが抑も六十万圓の金は即ち煙草稅の殆んど半額にて在る也。亦自殺するもの五千八百廿三人あり、殺害せられたる者七百二十六人あり、盜難に遭ひし人卅三万千三百五十二人あり、途上發病又は飢餓せし者二千二百六十八人あり、天災其他に罹りし者九千九百七十一人あり、又人員千人ある所ろにて婚姻せしもの八人半の割にて同時に離緣になりし者二人半、左れば十軒の内ち八軒に嫁入あれば二軒に追出さるゝ者あり。

明治二十二年總勘定

若し如此くに勘定し來れば、見る所ろとして背に汗するものにあらぬはなし、之れ實に吾々の住國たる日本全躰の上に取りての極惡細なるが、若し省みて一家の統計を爲し、亦一身の勘定を爲すときは果して如何ん。本年中何程の益を得たりや、若くは又何程の借金を爲たる乎、抑も何等の善を爲したる、又何等の罪業を爲したる。沈思默想して本年一歲の經歷を思運らすべし、過去の記臆皆な起り立つ、其聲果して吾人を祝するか、抑そも亦た吾人を咀ふ乎。



Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

論說

○アンビシヨン(野望論)

岡木田哲夫

凡そ社會に於て最も恐怖す可く、最も惡む可く而して最も其の表面の美ある者は何ぞや、金融の澁滯は經濟社會の怖る可き事なる可し、摸倣主義は隨分文學社會に於て惡む可く而も表面の美ある者なる可し、ダイナマイトの飛來は政治界に於て甚だ戰栗す可き事なる可し、然れどもアンビシヨン(野望)ある人間、又た人間のアンビシヨン程、恐怖す可く、惡む可く而も其の外面の如何にも燦爛として能く社會の目を欺く者は非ざる也。

吾國は已に代議政の國なり、言ば、筆戰舌爭の中よりして美政を得んと欲する國なり、此の時に當て尤も怖る可き最も惡む可き者は何ぞや、口頭泡を飛すの雄辨も、則ちパルクの如き雄辨もヘスチングの口に發せば如何、筆勢聲あるのユーゴーの如き名文も三世ナポレヲンの手に成らば如何、余は此等の名文の其の雄辨名文なる程、益々恐る可く惡む可き者あるを知なり。

凡そ此等アンビシヨンある者は多くは歴史、傳記の變讀より生ず可きなり、古の英雄豪傑が爲し得たる赫々の功名を讀み聞てムラ〳〵と胸中に起る煩脳あり、一片の眞心閃めくありて始めて爲し得たる事業たるを知らず、幾多公義の涙、幾多正大の叫び、之れを助くる有て漸く成就したる功名たるを看ず、只だ其の表面の光彩に垂唾し、又た無限の歴史傳記者が僞功名、僞事業たるを知らずして、虎心狼躰を掩ふに英雄豪傑を以てしたるを看破する能はず、只管其の奇しき文字に迷ひ、遂に「吾も人なり彼も」てふ階堦に其の一足を投る者なり、看よ之れ已にアンビシヨンに動く、已に己自身の爲めにのみ働く、其の言ふ事、其爲す事、恐る可きに非らざるか。

然るに近頃吾が政治社會を顧みるに實に痛嘆憂慮措く能はざる者あり、余嘗て維新大變革の歴史を讀む、内に公武間の猜忌憎惡あり、外に外交危難の益々迫るあり、之れに加るに諸侯其の說を異にし、强藩其の威を逞ふし、吾國の運命は將に孤城落日と評せんより寧ろ炎々錯騒の中にいつしか消へさらんとする大火事の如くなりたり、爲めに血涙悲憤の士は處々に起り、骨碎け肉破るゝも誓て神洲の爲めに盡力奔走せんとし献身犧牲となつて少しも恨みず、懼れず、其の神氣の潔白純粹なる、讀み來り讀去る内思はず人をして奮起せしむ、しかし一方より見る時は此の大變革は幾多の蛟龍に與へたる風

雲とあり、叱咤直ちにアンビシヨンを達せんと欲する者亦た其數甚だ多し、今日の日本元より維新時代の日本にあらず、然れども外に條約改正の未だ其局を結ばざるあり、內には未だ立憲政躰の實相實効を見ざるあり、茫々千里功名事業の野は最も日本の前途に橫はるあり、とても角ても一轉化を經ざるを得ざる運命の日本あり、嗚呼一方に維新の功名を見、一方に歐洲十九世記の政治家政略家が爲したる赫々の名に醉へる、今日在野有爲の士は其胸中に一種の己れ自らさへ明白に認め得ざる煩腦は起らざるか、余は今日實に凛烈潔白の士あるを知るあり、然れども近頃の政界を觀測し、彼の黨派の激烈なる爭を見、彼の無分別の暴動を見、虛心平氣、之を分析すれば彼れ等が躰面は如何にも眞らしく見ゆれども其中に無數のアンビシヨン宿らざるか、余疑なき能はざる也。

條約改正は眞に吾國に與へたる一箇の甘堝ある哉、之れが爲叫ぶあり、冷笑するあり、無頓着なるあり、駈引するあり、而して遂にダイナマイトを投ずる者さへありたり、然れども之れ只だ表面に現はれたる、叫、冷笑、無頓着、駈引、ダイナマイト、のみ、其の眞相は果して如何、鍍金の指輪は甘堝に投ぜられては其の僞物なることを現はすなり、條約改正問題の甘堝が吾々に與へたる眞相は如何…………余は痛嘆なき能はざるなり。

殊に余をして憂ひしむる者は吾が俊邁有爲の青年諸子が同じく此のアンビシヨンの潮流に卷込まるゝと是れなり、青年諸子は二十世記の日本帝國史中に、野望、詐欺、軋轢、騷亂の益々多からむことを望むか、正義、公明、嚴廉、壯大の益々繁からむことを欲せざるか、歐洲十九世記のアンビシヨン界を以て吾二十世記日本に移植せしめんと思ふか、今日の野望界を破碎し、放逐し、正々堂々の光明界を開くに暇なきか。

嗚呼先進アンビシヨンの爲めに動き、後進アンビシヨンの爲めに動く、今后數十年の日本社會は果して如何ならむ、余は憂慮なき能はざるなり。

野望―外の侮を禦ぐ能はずして先內部の騷亂を釀し、野望―百年の大計に氣付かずして一時の金箔を張る、野望は野望と軋り、相磨し、相激し、閃めき發する電氣は遂に日本全土を痿痺せしむ、嗚呼余の痛嘆、憂慮は果して杞憂か。

正人、義士、眞に動き、眞に泣き、熱涙滴る時將ち、聖靈躍る時轍を採る者、望むらくは吾が同胞姉妹青年諸士の中に現はれん事そ。

批評

○今の小說界文派

M・M・

今の小說界文派を分つて五とす、言文一致躰元錄躰合卷躰西洋飜譯躰及雜躰とす。

言文一致躰を類別して三とす、即ち左の如し。

（甲）美妙齋主人

通常言文一致を學ぶもの大抵此派に屬す、[illegible]硯友社の思案外史なども大に類する處あり。

（乙）二葉亭主人

此派言文一致の極實を極めたるものなれど學ぶ者更になきは其精神に到る事難きが故なり。

（丙）嵯峨の屋主人

此派前兩者の中間にたつものにして最もよし。漣山人柳浪子などやゝ似たるものか。

元錄躰を細別して二とす、即ち左の如し。

（甲）西鶴派

此派を奉ずる人近頃やゝ多くなれり。先達は愛硯軒紅葉露伴の三氏なり。

（乙）其碩派

此派は西鶴派より古く行はる、八文字屋本さて世間に流布する事多きが故なり。先達は饗庭篁村氏にして近頃篁村宗などゝ無分別の言を申すものあれど此文派篁村氏のモノポリーにあらざるなり。此派の文は西鶴より輕くして俗耳に入り易きをもて歡迎する人頗る多し。南翠氏の臥待月は此派に屬するものなり。

合卷躰を細別して二となす、即ち左の如し。

（甲）香雪山人

此派國文の品よき處ありて大によし。時には其碩に似たる處もありて文味大に損すべし。

（乙）合卷プラス人情本躰

三昧道人南新二彩菊山人等此派に屬す。最も面白きは南新二氏にして最も平易なるは彩菊山人なり、「いろは」を解するものは誰にでも解る故此派の信仰者最も多し、但し文章など彼是れ咲ふ者は更になく、至極をさなしき歸依者なり。

西洋飜譯躰を三種に類別す、即ち左の如し。

（甲）思軒派

此派の文ゴツ／＼して火箸をもて堅炭の箱を掻き廻すが如し、信仰者は實があると云へど汁氣は少しもなし、然し不思議に門徒多し。

（乙）鷗外派

思軒派より柔かきものなり、信仰者少くもなし。但し解つてよしと喜ぶものもありと。

（丙）四迷派

喜んで有がたがる人もあれど大概の連中は眞言秘密にて一向に解らず。みんな「お面白ウがす」と鼻をうごめかすのみにて信仰するものちツともなし。

雜躰は以上の諸派にあらざるものをいふ、例へば忍月居士の文字の如し。此中にはうまきものもあれど頗るまづきものも多し。まづ考ふるに初めは言文一致を學ぶをもてよしとす、なまじ一機軸を出さんとて雜躰に陷り、あとにも前にも行きがたく退きがたき境遇に落ちるもの多し、謹しむべし。

雜錄

○奈破崙の盲行録を讀みて其一二を評す

主一堂

奈翁曰。佛蘭西が子孫の時代を改良せむには良母より必要なる者なしと。是單に佛蘭西一國と奈翁の時一代とに限れるにあらず世界萬國古今未來常に然らざるはなし。奈翁の獨殊更に此言を爲すは他に大感する所ありてならむ。何ぞや。當時佛國の民情風俗即是なり。然らば予も亦彼に倣ひて大呼せむとす。我邦の社會を改良するに必要なるは良母に超るものなしと。

奈翁又曰。文德も亦武德の如く共に賞擧を受くべし才智は武力に依らざるも猶用うる所あり才智なき武力は爲す所なし。

奈翁人の失望の極終に自殺せるを聞き曰悲哀の爲に其心を喪ひ又は苦を免れむが爲に身を殺すものは未勝利を得ずして先走るものなり。

前二項の如きは實に千古の明言と云べく其意味ふに餘あり近代の豪傑其云ふ所古の武將に異り卓識非凡又當に然るか。

○軍人の生命

美芳野舍田面

去つ年の頃なりき、我が陸軍省にて獨逸國より軍學の教師を迎たる事ありき、其の教師の各地の師團巡迴りに行ける内、名古屋に到りしは、實に嚴冬の頃にして、堅氷溝瀆を閉ぢ、氷柱庭園に列ぶの時にて、大地は一面に氷なして硝子板の如くなりし、壹人の傳令使は馬に跨りてぞ先きに進み、其所此所巡迴りの案内にぞ立ける、教師なる人は、後より人力車に乗り居たるが、先驅する傳令使の馬、動もすれば、蹄辷らして倒れんとする事しば〳〵ありしかば、教師は後より聲かけて傳令使を止め、云ふ樣、御身は此所に馬より降りて行歩にて陣營に歸らるべし、御身の馬しば〳〵蹄辷らして御身の落んとするを後より見る、わなみの肝寒されて見るに得堪へず、とこそ云けるに、傳令使の答ふる樣、師よ御身さのみな懸念し給ひぞ、余も軍人なり、かばかりの事恐るにも足らず、例令馬より落つるもさしたる事はあらじな、時に教師は語やわらげて傳令使に云ふ樣、否否わなみは御身が軍人なるの故を以て特に誡るぞかし、身軍人となりては國家の爲に生命捧げてこそ、名擧なれ、義務なれ、余の案内せんとて創傷にてもしたらんには、御身の軍人たるの義務得果さず、余は又た日本國の爲軍學の教師にとて迎られたる甲斐なきぞかし、とて傳令使を馬より降らしめて陣營に歸し、己も亦た其の日の巡迴はとゞめしとなん。

○文學上の流行　　楠仙子

朝夕に變る衣裳の縞柄髮の飾はいふもさら世の中の惣てが是れ新陳交替の有樣なれば昨日のもの今日の棚の塵と交はり今日のもの明日は長持の底に埋まる。いづれか秋に會はで果つべき、戀ばかりか天文地理より神祇釋教、いまはしき疫癘もあれば無常までも流行の二字を脫れず、何が恐ろしとて是に上越す勢力もあるまじ、何が勢力ありとて是に上越す恐きものあるまじ。豐太閤の抹茶三昧元錄の奴の附髯、是は見ぬ昔日の事。束髮行はれて髮結閑になり月琴廢れて團八そろ〳〵音を出さんとす。とかく流行はうるさきものなり。

誰か流行の桃太郎となり誰か流行の犬猿雉子となつて分相應に鬼ヶ島のルビー、サフハイアを飾らんとするや。アヂソン面白くも解釋して曰く人間は正直ならんよりは怜悧振らん事を願ひ怜悧振らんとするより終には痴愚の極樂に往生すと。面白し面白し、富貴世に惛る場裏を痴愚の極樂とは面白し。痴愚でも不具でも極樂と聞て往生したがる凡俗の惰では流行の奴となるも無理ならねど卓然として其境を離れ醉へる中に獨り醒める文學界に流行の勢力ありとは………嗚呼!

外山矢田部井上三氏の新躰詩抄出づ。七五の口調を並べた詩にも歌にもあらぬ(ダカラ新躰詩と云ふ)ものが忽ちの中に流行出す。此塩梅では阿保多羅經が立派なエピックと崇められやふ、木魚を持つた說教坊主の中から今にもホーマアが出現しやふと眉を顰めて喜んだ人もあつたに、此風はいつか西の方へサラリ〳〵。天地を動かす三十一文字の威德万歲と寿ふく柿本人丸もありとか。

鐵膓居士の「雪中梅」東海散士の「佳人之奇遇」出づ。こゝかしこの下宿屋の客人いつの間にかヂスレリーとなつて一字千金丹の効能もなき戯作道樂。慷慨の志士憂國の佳人が延壽太夫の出語りに向島の堤からドブンボチヤンでもあるまじ、こゝは一ッ才子鷗遊館に時事を論ず佳人新聞を讀んで暗淚にむせぶナンぞは面白からふ。是はヂスレリーも氣がつくまい、エンヂミオンにもロセイアにもない趣向とトンダ聞いた風な穀馬評定。秋の風と共に此木の葉は散りにけり。

美妙齋主人の言文一致出づ。滑つた轉んだと議論まち〳〵の評判。月が笑つたり柿が張脉したり風がなめたりして何の事はない化物屋敷。是れは變文一致だらふ、イヽヤ一致どころか二地もサッチも行かないト口惡連の評判も七十五日生延びんと慾を乾く初物賞翫者の數には敵せず、いつか多くなつた

り「た」韵の詩。

さて今の流行はナアニー！　西鶴宗！　露伴子も紅葉山人も竹の屋の老隱居もみんな其御弟子にて歸依の信者頗る多し。是れは佛家の禪門と全じく沙彌から長老になる事出來ねば世間一切の衆生輕々しく此門に迷ふて鉄如意を食はされ目の上の瘤を貰ふ勿れ。殷鑑遠からず、既にゝゝあつたり。

流行は作るべし、流行に迷ふなかれ。倫敦に一婦人リボンを所持するもの客の席にて櫻色のリボンは此頃の流行と語りしに次の日曜日會堂へ行つて見ると誰も彼も申合せた樣に櫻色のリボン綺羅びやかに飾りしと。一人が好いた色と云へば妾も好いた妾も好いたと十人が百人雷同していつか一町内に廣がつて都の流行となるが常なり。全じ坐敷で一人があくびをすれば他の者もあくびをし一人がホヽと笑へば皆の者はハヽと吹出すはわる慣習にて珍しからず。政治小說行はれ未來小說負けぬ氣になり言文一致旗擧して西鶴宗銅鑼を敲く、西に行かんとするものは西に行け東に走らんとするものは東に走るべし。唯西が勝つか東が勝つかと双方へ五分々々に摸倣專一の順慾は唐の鷄、この日本文學國に住むべからず。世の樂男女、煩惱の淵に陷つて流行の犬となる勿れ。たゞし好イ子となつて可愛がられたき心あれば流行の基づく處を悟つて徒に皮相に迷ふ事なくまづ其神髓を味ふて是を胸中に秘め、ゆめゝゝ當世男或は當世女の素振をして半可通と笑はれ給ふな。

○花かんざし

高橋おろか

今は三年の春とはなりぬ、明治二十年四月婦人束髮會の美擧ありし以來上流の御婦人方は此會の趣旨を贊成せられて、究屈なる島田、丸髷の區域をまぬかれ、輕便優美の束髮に改められき、然れば高價なる櫛　笄　簪　の類ひは蓮葉者の手におちて、遠近へ流浪するに至りぬ、たゞ花かんざしのみは其風姿の美麗なるに愛られて、いまだパラ簪と小間物屋の店に同居はしながらも、少しく嫉ましき景况あるが如し、(こゝにいふ花簪とは古來の物を云へり、パラ簪も同種類じやと咎たまふな)蓋しかんざしとは、總て頭に插物の義なりとて、平田大人云、頭刺は和名抄簪は和名加無左之とあり、髮插の義にて頭の飾なり、伊邪那岐神の黒御鬘、天宇受賣命の日蔭鬘など有も、云ひもて行けば頭の飾にて頭刺に同じ、梅柳桂葵榊その餘も何にても、頭に插は皆頭刺と知るべし、といへり、また髮筋を徃昔かゝゝかんざしといふとて、本居大人の玉の小櫛に

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

詳く註されたれども此には畧けり、それ頭の飾に木枝など插ことは既に神代にあり、下つて紀元千四百年代以降孝謙天皇のころ、男女花の枝を以て頭に插風あり、萬葉集巻一長歌に「山祠乃奉御調等春部者花插頭持秋立者黄葉頭刺理」云々、是より後源氏紅葉の賀にも源氏の君紅葉をかざしにしたる事見ゆ、體源抄に「舞人着冠必有插頭用其時花」と出たり、其他大内の花の宴に時候の生花を頭刺とすること、雜書に散見せり、然れども是等は所謂殿上人の風流より出たるものにて、啻に貴族的のみに行はれしと思はるゝなり、今いふ近代の花かんざしは、その始め詳らかならざれども、紀元二千三百七十六年のころ婦女子の插簪たる事を、女裝考に閑窓自語を引て云、ふるき人の物語りに聞に享保の頃までは女のこどもなどは花すゝきなどの形したるしろかねのかんざしをさしける云々」とあれば、當時既に花かんざしの製作ありしを知るべし、後二十年ほどを經て元文に至り、花簪流行の旨を我衣に載せたり（此書は元祿以來の雜事を古老に聞あつめたる隨筆なり）云、花簪は元文寛保のころ舞子など銀の梅の枝に銀のたんざくをつけたるをさす、ゆきゝすれば音のするやうにこしらへたる物なり、其頃世にはやる」といへり、嬉遊笑覽に同書を引てのち、延享元年停めらる其後象牙、角、鼈甲等に拵へたり（中畧）然るを寶暦の初よりはやり吉原の禿に倣ひてせしなど云ふは一度止て後の度を始と思るなり、吉原の禿も舞子に倣しものとしらる」と見ゆ、然れば停止の觸書あるにも係らず、また寶暦のころ流行せしなるべし、是より三四十年の後寛政度に及て、一種步搖簪とて大いに流行したる趣を女裝考に記せり云寛政の間ぴら〱かんざしとて花の折枝などに鎖を幾すぢもさげ、其するには鳥蝶あるひは鈴のるゐ一品の物を、鎖毎に付たる銀のかんざしはやりし事ありて振袖きるほどの乙女はぴら〱ならざるはなかりしゆゑ、其頃の千柳點に「ぴら〱にぴら〱からむ由良助」寛政八年泉岳寺義士開帳、文化にいたりてふつとすたり、笄ばかりは縮せてかんざしといふ物に殘りしも今はまれなり云々、（今とは弘化四年を云ふ）また裁細工の花かんざしの事を同書に、裁或ひは紙細工の花かんざし今專ら用ふ、京製あるは優て美工あれど、價は廉く璞にして雅あり、此物今より四五十年前（寛政年間をいふ）某の御館に仕たる女中、偶然作り初けるに徐々職人の作る樣になりしと、其御館につかへたる老婦がいへり」とあり、以上の書に因時は、現今變らるゝ花簪は百年前一婦人の手より製出したるものにて、銀製と

は其價安く且つ美麗なるを以て、美術上の點より勢ひ是を插翳す者多く、從つて職工も出來其製造益々巧妙に至り、終に人目を驚かすべき奇品を呈するに及べり、以て社會進歩の一斑を示すの、證とするに足れり。

○善惡の木

善き木は盛え難く、惡き木は伸び易きものなり、開卷第一葉に圖する善惡の木成長の競爭は明治二十年に於ける種々の入用金多少を比較したるもの也、其數量を擧れば如レ左。

日本酒釀造商賣の金高	四六、五六八、二〇五円
海陸軍費	二三、七九七、四二〇
警察及監獄費	九、二五〇、八二五
盜難に罹りし物品代價	一、七五一、八三五
文部省定額金	一、一一七、六七七
外國酒煙草輸入物元價	九八七、七六九
備荒貯蓄救助金	五八二、九六〇
窮民救濟金	一七三、三五四

前の圖に柳は亂れ易きとて酒の金高を示し、松は國家の棟梁とて海陸軍の費を示し、警察は柊を示し、盜難の物品は隱れ蔓延するの跡を示し、文部は杉苗を形どり、其他は苗、二葉、種などにして形はせり。

○自然の美　M・M・

懸瀑數千丈、盛夏雪を噴き春日雷吼る、是に於て李靑蓮は倏如二飛電來一隱如二白虹起一と唱ふ。雨靜かにして鳩の聲深く風軟らかにして花の落つる事おそし、是に於て芭蕉は古池や蛙飛込む水の音と吟ず。是れ皆自然に感得して絕代の名吟を殘せしなり。花の下に西行は死なん事を願ひ、雨の中に北枝は句を拾はんと欲す。勿來關に八幡太郎は馬を留め、兀良哈に鬼上官は潸然たり。自然何ぞ此くの如く人を動かすや。考ふに到れば宇宙の眞理漠然として、誰人も皆哲學家となりて是を研究せんと欲するなり。

○近眼の元　山下石翁

近眼は物を近く見ねば成らぬやうの必要習慣となりて、遂に其習慣が病ひとなるのです。夫故へ其の原因は窓の開け方が惡くて光の這入り方の足らぬか、ランプあり燈しなりの光が十分でなきか、躰の据え方宜しからず脊を曲げて本を見ると屢ばある爲めか、又は二つの光ある眞中に於て物を見る故か、又は炭火などの燃ゆる前に於て書籍を見る爲めか、若くは又た其書物の文字餘り小さ過るゆへ也、特に車の上にて本を讀み、寢て居て讀むの類皆な宜しからず、斯るとをする故

近眼となる也、用心すべし。

○船暈の豫防　　十一寸月人

天晴れ風微かに波平にして江面鏡の如し此時滊船の港灣を離れて徐々に蹴行するを觀バ誰しも一度ハ航海して見たきものと想ふべし、されど斯程に吾人を失望せしむるものハ他に復とあるまじ、彼の舟好のロビンソンクルーソーですら些の暴風に遇へバ忽ち色を失ひ日頃の氣性も何處へやら只管先非を悔恨して再たび渡海すまじと決心せしとすらあり常人の眩暈足震嘔吐頭痛恰かも大病人とあるハ深く怪むに足らざるなり、余ハ元來船嫌なれバ數度の航海に苦みしとハ今仍ほ憶出してすら氣分惡くある程記憶に止まり居るなり、如斯が故に船暈ハ假令一時の痛患にして足一たび地を踏めバ忽焉散消平癒すると雖も時としてハ激しく身躰を衰弱せしめ終に眞正の疾病と變じ甚だしき時ハ死に至らしむると云へり、而して其最も船暈に罹り易きハ女性にして余が經驗に據れバ其少しも痛苦を感ぜざるものハ殆んど稀なるが如し故に彼等ハ寸尺も陸地を離るゝとをせず眞とに船暈の致すところ之を免るゝ術もがあと問ねく學者に尋ねたれど未だ信服する程の明說を得ず因て今迄見聞せるまゝを記述せんに。

醫學士リチアードソンハ船暈を以て彼の鐵板に鋲釘を打つ職工又ハ滊車にて眩暈し嘔吐を催ほすものと一般同性の病症にて其直接原因ハ船の動搖其罹患部ハ植物性神經系幷に腦脊髓神經系なりと云へり、而して此兩神經系を同時に刺衝さるゝものハ鮮なく此中一方を痛く侵さるゝものハ極めて多し若し船客の顏色青蒼食欲俄かに減殺し嘔吐吟哦するものあれバ植物性神經系を激衝されたるものと知れ、然れども若し頭痛眩暈須臾も直行する能ハざるものあれバ腦脊髓神經系を攻擊されたるものと知れと。

パッル氏ハ船室の諸器物船の動搖と共に上下するが爲に乘客の視神經を惱めて遂に船暈を惹起すと云ひ、ウオラストン氏ハ船の起伏に連れて身軀の重心急變するが故に腦膜に充血する爲ありと云ひ、チャプマン氏ハ脊髓神經中胃及び食道に神經小枝を岐出する基根部ありて是に血液充塞すれバ其機能を激動せしむるを以て嘔吐ハ自然に繼發すると云ふ。斯く學者の說く所區々にして數へがたし孰れを的切と看做して可きや殆んど撰擇に苦むなり、然れバ隨つて豫防治法も雜多の說ありて一々實試せざれバ其良否を定め難し、今ハ只功能多からんと推考するものゝみを掲ぐ可し。

チャプマン氏は前說を主張して其預防法には冷水若くは氷の細片を容れたる太き護謨管を脊推に着用するを最上の手段とせり、是を嘗みたるもの丶言に五十一回の航海中何れも苦難に遇はざりしとなかりしが護謨管を用ゐてより漸やく之を免るゝを得たり、船躰奈何に輾轉するも如し安臥して可成起立せざれば靜穩に眠り心氣爽快にして食欲反つて日來に增すとあり。

ハーバード大學の職員ウヰリアム、チエームス氏は啞聾兒の一般船に醉はざるより推理して耳神經に其素因ありと斷定し自から航海のとき其近邊を壓擦して大に苦痛を輕んじたりと然れば氏は壹人に船中にて耳邊を摩擦するか又は發胞膏を貼用するとを勸奬せり。

紐約府の醫士パーカー氏は已れの經驗說なりとて左の如く云へり、航海者は先づ搭船二三時間前に節食し舟に入らば注意して寢床を中央に占め、出帆前に横臥すべし浪荒く船動搖せば一兩日起立步行等あるべからず惡臭を嗅ぎ汚物を視る等凡て嘔吐を催促するあり、每朝目醒れば茶若くは珈琲を喫し食物は其量を節し、下痢激發せば類似虎列刺病に用ふる藥劑艮功を奏すべし。

醫士の指圖に從へば服藥の類は左の如し、珈琲、亞爾箇保兒亞硝酸粉質、哥侶保兒謨、コカイン、青酸、比斯紐斯、重炭酸曹達、及尼多倍虞里斯林等。外用には氷、哥侶保兒謨、樟腦、莨菪擦油劑、及煖足器等なり、然れども皆即効保證の艮藥とは爲し難かるべく鋭利の投機も好き工夫なきにや專能藥劑の廣告も新聞紙上に見受けざるあり、左れば今吾が姉妹に報導すべき惟一の預防法とてはなし各自以上の數法を實試して其中自己に適應せるものを撰ぶにあるのみ。

○腸チブスに就ての心得　醫學士　三島通良

近頃東京市中に於きまして、遂に腸チブス病が流行りますに就ては、皆樣が此に傳染せぬ用心を爲なければならぬは勿論若も不幸にも此の嫌な病に罹つたなら先づ堂云ふ心得が無ればならぬ歟と云ふ事を摘んで御話致します。

腸チブス病は昔は陰證の傷寒など丶稱へ、東京に於ては九月より十一月(秋日)の候に來るを常とします、此に罹る人は男子に多く、先は十五歲より三十歲位の强壯の人を犯し、小兒や老人を犯すとは稀な一の急に起ります傳染病で、數週の間の經過を爲し、此に脾臟の大きくなるのと一定の腸チブス熱があるのと、精神的の違常を加へて參りますものです。

此の源因に就ては、諸々の説が有りますが、其は茲には無用ですから申ません、然しチブス患者の大便中に在る毒が、諸々の經歴を爲して、飲用水等に混じ、其から人の體中に入ると、考たら宜しいでしやう。

されば此の病に傳染せぬ用心は、何の傳染病でも同じ事で、淸潔と云ふ事が第一で、一度沸騰せぬ水は決して飲ぬ事、チブスの患者に近付ぬ事、飲食物を注意する事、腸胃の工合を善くして置く事などが主な用心です。

腸チブスとて始から判然と別るものではなく、多くは感冒の氣味にて氣分快からず、手足だるく、そして强いものは頭痛です、それで食事が進まず、胸先から心腹の邊が張る樣で、先づ何となく腸胃の病氣らしい、此の時分にはまだ判然とチブスと云ふ事はできません。

其後は前の事に續て、頭痛は劇しくなり、鼻血、耳鳴を起し目がチラツキ出し、而して彼の熱がヤツて來ます、此は大抵始に寒氣がして、漸々熱の度が高くなつて、終に攝氏の四十度邊迄昇つて七日乃至十四日間も續くのです。

醫者の方ではチブスの經過を分けて、凡そ三段と致します。

第一週は、先に申上ました樣な容躰で熱が出だします、そして顏色は赤くなり、舌には帶が着き、眼はイヤに光りまして、時々嫌な夢を見ます、食欲は少なり、日本に於ては便通は留るのを通例と致します。胸部から背部にかけて紅色腫出が出來、又た沸子なども出來て、皮膚は丁度鮫膚と云ふ樣になります、熱は此の週間中は大抵四十度前後で持續けです。

第二週には患者の顏色は青白くなり、何もカマワヌと云ふ風になつて、ボーツとしてしまいまして、時々譫忘を爲し、ヤー、ザツト醉漢の樣な調子になりますのです、舌には厚く帶ができそして乾きます、此の舌の乾くのなどは宜しくない徵候ですから注意く可し。時によると譫忘が强くなると隨分瘋癲患者の樣に物を投たり、人を擊たりなどする事もあります、又大小便を知らずにするなど、云ふ事もありますから、此等は氣を付て居らねばありませぬ。若し下痢が起れば此の時分に起つて、其の大便は黃色くて丸で黃色粉で製したお汁粉とでも云い想です、脺の臓は此の時分には最も大くなるし、又小水の分量が減じます、若しも小水の分量が餘り少なくなつたら、此は惡い徵候です。

第三週には熱はまだ昇つたり降つたりして、舌は乾て焦げた樣な色の帶が着て居ります、西洋人は此の時分に能く牀瘡で

苦みますのですか、日本人は皮膚の構造が善くして不潔の難だけは實に少ない樣です。

第四週にあると通例の腸チブスなら遂に降り坂で、熱は漸々と少なくなり、脈搏は善くなり、食欲が落て來、膵臓の大きくなつたのは小くなり、一日々々漸々に善くなるのは最も良い質のチブスです。（未完）

小説

〇伊太利の佳人　第四回

ゲーテー著
愛妍居士譯

佳人は斯く靜に引籠りてありければ、市中の少年輩は之を放樂ておき難く爭ふて佳人の窓前を頻りに往復し晩にありぬれば樂を奏し高く歌を謠ひ佳人の注意を惹かんと求めける佳人は始めて少年等の辛苦を見て不快を感じ五月蠅き事と思ひしに少時のうちに慣れ來りて最と長々しき夜には何處より來るとも知らずたゞ愉快げに晩樂の調子に耳傾けそれにつけても夫の留守を思ひ出で溜息つくも屢々なり。

佳人は一面識もなく吾を慕ふ人々が今にも疲れて去れかしと思ひしに疲れもやらず少年等の辛苦は却つて増すが如く絶間とてはなかりけりされば佳人も今は幾度となく繰返す樂器音調樂譜を一々區別し能ふほどになりて終には渠等は如何なる人なるや殊に永く耐忍して吾窓前に樂を奏するは何人なるかを知らんとの欲望起り吾無聊を慰めるに何に惡しき事のあるべきやと吾と吾心に許しそれより時々窓掛の隙より或は半開の窓の内より街上を眺めて通行人に目を注ぎ最も長く吾窓を望む人を區別せんと始めける窓前を往來する少年輩を見るに多くは年若ふして高等なる美服を裝へども其風采と万般の擧動とにて生意氣と浮薄との相劣らざるを見らるべく佳人に向つて愛敬を表せんとするよりは寧ろ其住める家屋を見て奇異の感を爲せるものゝ如し。

佳人は時々自ら我身に向ひ嘲りつゝ云けるは。

吾夫は實に聰明なる想像を有せり吾夫は余に向ひて情人の條件を定め彼の實に余の歡心を得んとを苦慮し余も亦た惡からず思ふ人は決して情人と爲すべからざるとを教示せり吾夫も聰明、遜讓、沈默は血氣の少年の有する性質に非らず少しく老成したる人々の有する德にして此等の德は吾々の理解力の尊重を得れども未だ吾々の想像力を感激せしめまた吾々の愛情を發動せしむるの能力なきとを知れりいま余

の歡心を求めんとて余が家屋を圍繞するの輩を見るに渠等ハ決して余の信用を引起さずされども余が信用を置くに足るの人にハ余ハ少しも愛戀の情の起るとなきなり。

佳人ハ斯く考を定めければ次第に奏樂を聽き行人の風姿を觀るの快樂に身を任せ不識不知して不穩の欲望益々胸中に發動せり固より時々此欲望に抵抗するの心起らざるに非ざるも已に遲くして其効なきぞ遺憾なる凡そ富裕愉快の生活、無聊懶惰ハ善良なる兒をして不識不規則なる欲情を發育せしむべき原因とぞ知らる。

今や佳人ハ人知れず竊に大息して我夫の何事にも秀でたる中にも亦た能く世俗の事情に通じ殊に善く女性の心を知るとを感じ始めたり。

佳人ハ自ら我身に向つて、

實に夫の言へる通りなり余が彼の通り決して左樣の事なしと爭ひし事も出來得べき事にてありしなりされば夫の言へる如く此の如き場合には實に注意と見識が必用なりしなりされども無慈悲なる境遇ハ不定の欲望を以て我身を自由にするが如くに見ゆ此時に至りてハ注意も見識も果して何事をか爲し得べきぞ又少しも相識らざる人を如何にして擇ぶべきかよく相識れば最早擇ぶべき必用なしされば人を擇べとハ甚だ無理なる事ならずや。

先是不快の念ハ已に十分佳人の周圍より襲ひ來り居れば上に述べたる如き他の數百の志慮ハ益々其不快を增せり佳人ハ自ら之を慰めんと試みたりされども皆徒勞に屬し總て愉快なる物ハ佳人の感情を激勵せしめ其感情ハ假令靜なる寂しき時にも想像力中に一種の愉快なる肖像を描き出せり。

斯く佳人ハ不快に日を送りけるが或日親族ハ種々市中の新聞の話の末若年なる法學士の事に及べり此法學士ハ曾て「ポロリナ」に於て學び今恰も其郷里なる當市街に歸り來れるが非常なる學力と拔群なる知識才能を有し愛嬌ある風采中自ら大なる謙遜を顯ハし當市の理事官となり市民の信用厚く又裁判官の尊敬を博し日々に市會所に在り事務を執り市中の評判高くして人々之を賞賛するの語なきに苦めるほどなりき。

佳人ハ斯く完全無缺なる人の傳記を聞き倘ほ一層詳に之を知んとの望起り心竊に此人こそ我夫の敎示せる明文に從ひ我心を任せ得るの人ならんと思へりされど法學士が毎日我家の前を通行するを聞き其喜怡言ハん方なく常に注意して人の市會所に集會せる時間を計り窓外を眺めけるに終に法學士を見

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

出せり其時佳人の胸中には何となく騷擾の狀を呈したり法學士の年若ふして風姿の愛嬌あるは佳人にとり最も必用ある事なれども他の一方より見れば其謙遜あるは大に佳人を憂慮に置くの材料となりぬ。

佳人は數日の間竊に法學士の狀を窺ひしに遂に法學士の注意を求めんとの願望に抵抗し難く衣服の上にも十分の注意を用ひて着こなし涼亭の上に登り眺め居りしが法學士の來るを見るときは心臟の鼓動は常に烈しくなりぬ法學士は常の如く物思なる歩行にて顧みもせず其眼は下に注ぎ佳人のあるをも氣附かず威望儼然として路を行けりされば佳人の憂苦加之其慚愧は想ひやられたり。

佳人は其後幾日か無益に法學士の注意を惹かんと求めけるが法學士は何時も常の如き歩行にて其眼は上に向はず左右に注がず佳人はよく見るに從ひ益々法學士の其身に欠くべからざるが如くに見へ其愛情は日々に活潑となり終に全く抵抗すべからざるに至れり佳人は自ら其身に向ひ、

如何に汝、道理に明るき高尙き汝の夫も已に夫の留守中には汝が朋友なく情郎なく暮し能はぬとを豫言せしならずや今實に其豫言が當れるあり幸にも十分汝の意に適ひ又汝の夫の意に適へる少年―汝が共に水漏さず愛戀の快樂を得べき少年に遇ひ何に悲み傷むとのあるべきぞ誰にても時機を誤るは愚なり猛惡なる愛情に抵抗せんとするは亦た愚の至りぞや。

此の如き志慮は多くの他の思慮と混じて佳人の意見をして益々强からしめ暫時は尙ほ心を定めかねて彼方此方と動されたりされども吾人の長く抵抗せし情欲も終には急に抵抗を打破り憂慮も恐怖も謹愼慚愧も義務關係をも蔑視して顧みざるに至るまで吾人の意思を高める如く佳人も忽ち急に迅速なる決心を取り常に召使へる年若き少女を男の許に遣はし如何にもして之を得んとせり。

少女は走りて法學士の許に到りけるに法學士は恰も多くの朋友と饗宴を開きてありければ主人の敎へたる如く少しも違はず挨拶を傳へけるが法學士も豪商とは幼き時より相交り兼て相知る人なれば其結婚の事も遠方に在りて聞き又其旅行の事も知れども佳人の胸裏は露知らず此使は多く夫の留守中に必要なる事件起り我が法律上の助けを得んがためならんと思へば驚ろきもせず丁寧に少女に向ひ饗宴終り次第直ちに參堂すべきことを答へたり少女は歸りて主人に告げゝるに佳人は今

にも最愛の人と見もし、話もせんと思へば其喜怡一方ならず直に室内を清潔に掃ひ橙葉を處々に散らし價高き毛氈を以て椅子を蔽ひ常々徒然の折には耐ゆべくもあらぬ時間も客來の準備の爲に最と短く覺へられぬ。

寄書

○俗說美談黄門記に就きて　耕雨散人

此度歌舞伎座に於て演ずる演劇は改頁といふ文字を冠むりし故にや平生演劇の事に就きては餘り議論せぬ女學雜誌にも二人まで之を評論し玉ひしゆゑ余も其顰尾に附きて少しく思ふ處をのぶべし。

俗說美談黄門記は至て無味淡泊なりといふは一般の說なるが如し然れども此淡泊なるには其處に一原因あることなり元來この俗說美談黄門記は黄門記幼名講釋とかいへる外題にて十年前新富座に於て演ぜしものを改竄せしもの〻如し幼名講釋は脚本としては其結構甚た面白かりし故當時大評判にて大入を取りしが事實上より論ずる時は是非善惡を轉倒すること甚しかりしを以て當時此事に關して一大議論の起りし事ありしなり。

去れば今回幼名講釋の儘にては興行しがたき故に幼名講釋中にて最も面白き處——事實上よりは最も不都合なる處——を刪去りし故如此無味淡泊にはなりしなり然れば單に淡泊なる點のみをもて福地君を攻めて其苦心のある處を察せざるは櫻痴君のため御氣の毒とこそいはましか。

事實は事實なり演劇は演劇なり事實の如く芝居をせよといふは芝居の芝居たる所以にあらずして到底行ふべからざることなれば只歴史上の善人は何處迄も之を善人とし歴史上の惡人は何處迄も之を惡人とする以上は其間如何に粉飾するも不可なかるべし啻に不可なきのみならず最も粉飾を要すべきことなるべし俗說美談なれば猶少しの潤澤を加へ得がたき處なきにしもあらざるべきを。

目下興行の脚色は何人も御承知なるべければども幼名講釋に至ては然らざる方もあるべしまして歴史上の事實に至ては乍失禮御年若き御婦人には御存知なき方もや有らんと思はる故、目今德川史に委しき水戸の學者より散人が嘗て聞きし話を左に略記して一覽に供すべし。

延寶八年(二百十年前)將軍德川家綱薨す、子なし、大老酒井忠清鎌倉の故事により有栖川王を奉じて將軍と爲さんとす老中堀田正俊之を不可なりとし綱吉を館林より迎へて之を立つ、綱吉既に立ち正俊を以て勝手掛となし治民の令を發す正俊人となり剛直寡正頗る大臣の風あり奢侈を禁し忠孝を勵まし服忌令を定め曆法を改む是を以て天和の政彬然として觀るべき者あり然れども其剛直に過ぐるを以て將軍といへども之を忌憚する所なき能はず稻葉正休之を以て將軍に不利なりと思ひ貞享元年八月廿八日（二百六年前）正俊を營中に刺す是より後綱吉縱肆に流れ元祿寶永の政遂に天和の如くなること能はず識者之に由て正俊の忠貞剛直を偲ぶと云ふ。

貞享三年頃より綱吉犬を愛することを始む又畜類憐愍令を發し禽獸の微といへども之を殺す者は死刑に處す魚鳥を賣く者其業を失ふに至る。

元祿元年柳澤吉保を以て御側御用人となす。

元祿三年水戸光圀西山に老す。

元祿五年光圀碑を湊川に建て題して嗚呼忠臣楠子之墓と云ふ（此事識者口實の一とせられたり）。

元祿七年藤井紋太夫光圀を譏して狂心せりと云へり綱吉即ち光圀を召す光圀路を筑波道に取りて江戸に登り將軍に謁す四月廿五日將軍光圀をして大學を講ぜしむ光圀頗る勤王の義を演ぶ綱吉其亂心にあらざるを知り文臺を撤して之を賜ひ且ッ唐織の能衣裳を賜ふ光圀江戸邸に留ること數日歸國の時光圀能を爲すを以て諸臣を召し能中に於て紋太夫を手戮す敢て其他を問はず光圀時に年六十七、後光圀薨ずるの時紋大夫に關する簿類は悉く之を燒棄せしめたりと云ふ。

元祿八年金銀缺乏せしを以て慶長の古金銀を改鑄す、然れども將軍の奢侈甚しきを以て猶ほ不足を告ぐ。

開書

○記者に書を寄せて精神的姉弟の媒ちを望む　天牢囚民 K. N.

囚民は學海の航海者で、そして未だ休檣解帆の時を得ません。囚民は一雜誌の記者で、そして未だ社會に名を博しません。ですから囚民が今日に於ての、先づ處有物としては自己の精神と女學雜誌とに對する、慾望と云ふものが二ッあるだけで、其餘は顧むに足らないです。して今や其一ッの女學雜誌からして、世間絕對的の寶玉——英國女皇の冠に附けて有る「コヒノール、ウヰクトリヤ」よりも尙尊き、靈活的の寶玉を得たのです。其れは第百九十號に其書狀と共に載ッて居る、姓は岸田名は不美となん云へる一個の佳少女です。囚民此書狀を凝目誦味する事てうど七回、實に、慈愛なる父の書簡よりも、愛渥なる母の書情よりも、一層二層有り難く、嘗て起さゞるの感情を湧かしたのです。其初行——謹んで啓す云々貴兄益々御奮發女海の燈臺たる事を希望す——には女子が、燦爛の光り萬里を照す女學海の燈臺を以て、他日の自からに期する處ろあるは、アリ〱と現らはれ

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

て居ます。そして‖愚妹岡山の片田舎に產し云々‖は頗り少なき野の梅が小夜の嵐に脚つやうです、が或る人の云へる如く都會は人間が腐敗と消滅に急ぐの・塲處で、屍山血河の惨よりも惨なるの狀を思はゞ、女子は宜しく旭水の、清流に美質を養ひ潔砂に美玉を磨く可きです。‖明治十九年十一月岡山に女學校の創立ありたり云々十一に滿るに及んでヨビ科に入る是れ明治二十年九月一日なり‖には其學問に熱心なると、彼の非凡の…然り其梅蕾が徐ろに温風に軟摩されたる如き心地を見るべしです。○○‖夫れよりは東京の諸雜誌及び諸新聞を拜讀致し云々東京に於る各女學校生徒樣の事が拜見致したし云々‖には益々初行の意味を確かめて居る事と、其極めて順良なる其能く己れを知るの女子たる事とが推知されるのです、そして又都門の或る一部の貴婦人令孃たちが其体面を一瞬奇怪の問に損して、惨風悲雨聞くも懶き醜聞を流し、雪虐風饕眞に吾人をして苦殺せしむろが如き源より、彼の歐洲婦人が學問上若くは交際上より其聲價を騰貴するに反して、學問上若くは交際上より其聲價を下落し來るやうの有樣ある事を、嘆憤するの意は文字の外に明らかです。是を一讀する女學生の中には或は赧顔を掩ひ冷汗を背後に漲らす者の有らんかと、四民はまた恐れるのです。‖愚妹常に敬愛する一人の學友云々‖の敎行には實に温々たる友愛の情、掬するに餘りあるです、此くの如きは今日に多く得難きものでせう。‖愚妹の宿處は旭東にありユウゼン所は旭西にあり云々‖朝日川の東西を此雅致なる文字にて記されしは又以て女子が天性の優雅なるを知るべしでせう。‖愚妹不幸にして三歳にして父を失ひ十歳にして母を失ひ云々‖讀み來て數滴、ハラ／＼と落ちて止りません…吾が涙湖に波荒れて秋の堤も防ぐに由ないです、吾が九腸寸斷の痛念は直ちに聲音の中樞を刺擊して覺へず「ア丶不幸なる佳少女…佳少女實に…ア丶」斯く叫ばしめ、次で心頭に描き來ッたのは「吾れ鳥ならば…若し吾れに翼ゃあらば今にも此女子――此最も賴母しき、此最も可憐可愛なる女子の傍らに往いて慰むべきに、保護すべきものを…世は儘ならぬ」との想ひでした。其名の不美とは蓋し外皮を云ふか、そも又如何なる處を指すの文字でせう、四民は其內膸の美なるを知ると仝時に、膸美の文字こそ女子の名に適當せりと思ふのです。そは兎に角、四民が囑望の一つなる女學雜誌、々々々記者足下、四民は此寶玉と思へる佳少女と、肉体的即ち結縭仝室の姉弟――所謂精神的即ち思想仝契の同胞――たらん事こそ希望の至切なるものです、であるから記者足下に此媒ちを願ふのであります。夫れ故に姓名の如きも別に記さないですが、併し必要あるに於ては、敢て申さないと云ふ限りでは有りません。

交詢

問の部

（一一） 北越寒村子の名にて酒不可飲薬の効能をお問合せに成りしが之は成るべく廣く試用せし人の經驗を聞たしと存ず、諸君お答ありたし（編者）。

（一二） 一年の計は春に在りとか申し候、今年は今年、來年よりこそと思ふも宜しからぬことに候半が、來る一年間の心得を先づ考へ置きたく候大畧お示しを仰ぐ（神田一女生）。

答の部

○五 僕は經驗に由り大に悟る所ろあり即はち美は中通り以上、性質は正直親切に藝は裁縫を能くし文は一と通りの假名文を讀み解く程、体格程よく遺傳病を避るは勿論なれども身体極めて强壯なる者、以上四點に不足なければ先づ中等向に宜しと存じ候（さほろ）。

○六 松島、日光、榛名山、橋立、宮島など、云ふ名所を擧れば澤山あるべけれど問ふ人の心は主も何地に在る乎、恐らく名にふりし名所の事にあるなるべし然らば左の所ろこそ宜しからん、房總、駿遠、紀大和、攝備等は一体に風景に富めりと云ふも差支へなかるべし、又一地方の一局部を擧れば奥羽、中國、北陸、四國、西國、九州枚擧に暇まあらぬなるべし（同前）。

○○○○岸田不美孃へ 七時半より四時半迄學校に在りとは勇壯强健の男子すら此の長時間では困りますに況して幼女性の身にして左りとは御勉强なと、嗚呼貴孃よ若し日本の母となり强健たらんとせば修學時間を更に節し玉へ、教師ドクトル、ベルツ氏常に曰く修學時間は一日四五時を踰ゆ可らず衛生を顧みず時を貪ぼるハ異日の大業を棄るなりと（方內齋主人）。

●東海一女子君。ケツトはぬるま湯に艮き石灰を溶きたる者の中にて洗ひ振り立て后ち清水にて灌ぎ水を絞り速やかに乾すので濕れし儘捨て置てハ成ませぬ、又フランケツトも同じ洗ひ方にて善けれど后にヒノシにて熨し毛並を直しなさい●明治學院長田君。齒磨粉にも色々ありますが先づ吾社中が信じて用ひますハ齒醫師高山氏製のです京橋同氏方にて賣られますが多くなればお取次をしても宜しう御座います●y・a・子。此頃御社に於て交詢の部御開き被下候故早速御伺申候が近頃發行せる雜誌中餘り高尚ならずして教育なき女子或ハ子供に益ある雜誌ハいかなるもの宜しく候や御教示を請ふ。本社交詢の欄內にて度々申せし如く來年一月より發行致す通信女學がよいかと思ひます、少い方の御よみ遊ばすには少年園と申す雜誌が適當で御座いましよう發行所は北豊嶋郡上駒込村十九番地で一冊五錢宛です。●北海道アイヌ山人。追々クリスマスも近より候へば佐々木豊壽樣德富猪一郎樣亦女學雜誌記者には如何なる送りものがよろしきか御教示を願ふ。さても困つた御問ひ何と申上てよきか、併し幸ひ北海道に御住のと故佐々木氏には御地禁酒上の摸樣、德富君には政治的運動の有樣など御しらべ御送り相成り候ひてこそ無上のプレセントかとぞんじます、女學記者は御志しを頂戴いたし品物は先づ御斷に致す方勝手で御ざいます●厚生舘小使樣。演說會塲にて此頃口笛を吹くもの有之候が右は何等のために候か、獨乙にある大學の生徒が卒業論文を讀む時に來聽者が口笛を吹く事がありますこれは極失敬なようですが誤りのあると云ふ證據に多くの博士等が吹くと云ふことです多分博士氣取の亂暴書生がその眞似をするノデシヨー。

雜録

○文學極衰

某氏云く、今日は文學極衰の時代なり、世人漸もすれば云ふ文學比類なく映盛を極むと、如此きは未だ高識見を有せざるの論なり、彼の元祿享保時代以下幾多の文學者の著書を見るに、凡そ小說詩文章の書に非ずして先づ賣らんことを望みて出版したる者なく、多くは己れ言わんと欲することあり書して久しく之を藏し長く世に出すの機會あらざりし時、偶ま助くるものありて遂に之を公けにするに至れる也、故に其序文に於て此顛末を記し恩を出版者に謝せざる者少なく、山陽が松平越中守に依りて日本外史を出版したる如き即はち此類なり、然るに今日の書を著わすものは、己れ先づ鬱勃言はんと欲する所あり慷慨之を筆にして世に問はんとするにあらずで、先づ世の好尚を察し只だ多く賣れんことを欲して著作す、之を以て其文纖弱軟巧、絕えて雄厚絕大の象なし、故に若し只だ文辭の綺麗なると、結構の巧美あることを以て文の善あるものとせば之を知らず、苟くも一等高着の見識を以て評下するときは今日は正に是れ文學極衰の時也。

○濁事淸報

●埼玉縣會に於ては全會一致にて廢娼建議を呈出することなり且つ片岡、大河原、福田、田中、宮川等諸氏の議可決し向ふ三ヶ年間に本庄深谷二ヶ所の妓樓全廢の事を併せ建議することとなれり。

福井縣會に於ては、去月三十日廿一番議員白崎市太郎氏の發議により爾后五年を期し娼妓を全廢したしと申出せしが少數にて消滅したり。神奈川縣會に於ては、去六日五十七番議員宮田寅二氏廢娼論を建議し縷々其弊害を陳述したり八番議員細野氏之に贊成し四十八番議員井田氏尙早しとして反對したり。採決に當り不幸にして否決されぬ。東京市會に於ては、去七日市部第一號議案衞生費を討論する際撿黴費の項に至り六十一番議員田口卯吉氏は如此き不潔の事項を當會に於て堂堂審議するを好まず但し衞生上の必要ありとせば行政上に議決を經ざるも他に取扱の法方あらん依て委員五名を撰擧すべしと發議したり然れども亦不幸にして多數を得ず消滅したり。去八日嚶鳴社の政談演說會に於ては、伴直之助氏廢娼の議遂に不可已を演說し且廢娼之說一千部を傍聽者に頒布し會后廢娼の事に付討論あり。去九日婦人矯風會及婦人白標俱樂部發起の廢娼演說會に於ては、島田三郎植木枝盛の二氏各廢娼論を演說し又伴氏の廢娼の說並に嚴本の妓樓全廢論各一千部を頒布し且つ廢娼會新發起の事を披露したり。讀賣新聞報知新聞及東京新報は其社說に此問題を論じ出せり。

○淸濁如何ん

四年間、貸座敷及び娼妓の増減左の如しと、毎日新聞の調査に見ゆ。

貸座敷

地名	年末現在 二十一年	二十年	十九年	十八年
新吉原	一一二	一〇二	九九	八九
深川洲崎	九七	一〇三	一〇四	一〇五
品川宿	六二	六三	六四	六四
內藤新宿	五九	五九	五九	五九
板橋宿	一四	一四	一四	一四
千住宿	三五	三五	三七	三八
合計	三七九	三七九	三七七	三六九

本表中深川洲崎ハ昨年六月根津より移轉す仍て累年は根津の分を揭ぐ

娼妓

地名	年末現在 二十一年	二十年	十九年	十八年
新吉原	二、〇七二	一、八二二	一、七一一	一、五七四
深川洲崎	一、〇〇九	九六〇	九三五	九二三
品川宿	六〇三	五七〇	五五一	五七七
內藤新宿	四五九	四一〇	三九五	三六一
板橋宿	一三八	一〇七	一〇四	一一四
千住宿	四六六	四六九	四五二	四四八
合計	四、七四六	四、三三八	四、一四八	三、九九七

○彼の狹隘なる政黨論

上州には改進黨員を入れずと迄て申し居りたるに、過日島田三郎君を聘して廢娼演說を催せし時には、數千の聽衆中一人の否聲を發せしものなかりし、又去九日厚生館の演說には、島田三郎君植木枝盛君平素政治上に於て多少の異見あるに拘はらず協同して娼妓全廢の事を熱論ありぬ、凡ろ社會上の大問題に着目するものは皆如此くあらまほし。

○廢娼會

去九日厚生館演說の席上、左の告文を配布したる者あり、

廢娼會定憲

第一章　吾黨は公許娼妓を全廢せんとを期す

第二章　吾黨同志者の會合を廢娼會と稱す

第三章　吾黨ハ本會の爲に盡力するとを盟約す

右定憲三章に同意の諸君は左の所へ向け姓名宿所を報告ありたし追て細則案を草し同志者に問ひ近日發會相催すの手筈可致候　富士見町二丁目女學雜誌內廢娼會發起所

○おいらんの繪

數多の裸躰圖すでに葬られたるが、之と同じく取締りを願ひたきはおいらんの繪なり、幼なき子供迄で之を玩そび其家戶々意あく之を掛くるに至りては、是れ白晝娼妓をして其民の家に交際せしむる也、否交際のみに非ず珍重せしめ愛玩せられしむる也、之れ何等の不取締ぞ、況んや堂々之を海外に迄で輸出し、之を以て日本は東洋の美術國なりと誇らんと欲す、同胞果して之を喜こぶ乎。

○女性速記

吾人が婦女子の速記者を求むるや久し矣、去九日の夜厚生館の演說會に於て佃與二郎氏の女生二人臨席して之を速記したり、女速記者が公開演說に臨みて速記したるは之を最始とす。

○自由主義

自由黨再興か、愛國公黨樹立か、板垣後藤二伯の同意か抑も反意か、大同團結と舊自由黨の協同か若くは分裂か、模糊曖昧として何人も眞狀を悟らず。板垣伯大井憲太郎氏等に送れる書に云く、

此頃承われバ這回大同俱樂部より各地に向け警備を發し小生の發起する會合に會し諸般運動差控へる樣通知致候趣に候……小生は……決して大同俱樂部と抵觸する處無之固より其抑制を受くべき謂れなき儀に付……

又大井氏等が盛に土州に下り板垣伯に面會せし談話を辨明するの文に、

……板垣伯云く……過般其調和を試みん爲め片岡健吉氏をして東京に到らしめ大同俱樂部員に謀りたるに同員等は猶豫を請ひつゝ決議を爲したりと其儀たるや大同會は將來自由主義を以て運動を爲すと是れ何たる言ぞや大同は政黨の名義にあらずして連合の名義なるにも拘はらず自由主義を揭ぐるとは奇怪千万なるのみならず是れ實に自由主義の金玉の名稱を汚瀆するもの也又果して之を揭げんとせば後藤氏に於ても友誼上予に照會すべきは當然なり予は今日迄后藤氏に對し友誼を欠きたることなきに后藤氏が此擧動を以て過せらるゝに於ては予は友誼の關係なき者と思慮せざるを得ず又后藤氏は過般當地より發したる西原氏に對し予は自由黨にあらず且つ日本の如き幼稚なる政黨特に不文明の國にありては歐洲の如き哲學の原理に基きたる自由主義を以て運動すべきものに非ず時々の問題に由り論究すべきものなりと談話せられたりと同氏は曾て自由主義を唱へたるをも顧みず此言を發せんとは抑も何たることぞや……

苟くも如此くば、二伯の關係、大同團結及舊自由黨の關係、來十七日大坂大會の結果略ぼ推知するを得べし。

○二疊敷五人坐臥す

鍛冶橋監獄署の未決監は、樓上樓下にて四疊敷八十間あり、目下入監人八百一名なるが故に四疊敷に十人詰の割合なるよし、廣き寺院にも僧侶數人しか住はず、築地邊の宣教師の住宅は中々壯大にて、警視總監の官舍も至つて美なり、然れども一疊敷に二人半の未決監者塡充せるを思へば何人か其居に安んずるを得ん、ラミセラブルの慈善宣教者今日果して何處にある。

○女　報

○下賜　今般皇后陛下の思召を以て東京府養育院へ一ヶ年六百圓づゝ下賜さるゝとに爲れるよし。

○華族女學校の官制　去る四日宮内大臣土方久元子は勅を奉じて學習院及び華族女學校の官制を改定せられたり。

○御產所引移り　豫て妊娠中なりし掌侍園祥子は來る一月を以て御分娩の期なるを以て去る四日青山御所内の御產所へ引移られたる由。

○乘馬技術御一覽　皇后陛下は去る二日午後二時より吹上御苑の馬術御覽所へ出御あらせられ侍從及び主馬寮の技師等の馬術を御一覽あらせられたりと云ふ。

○馬術練習所　去る十一月廿四日馬術練習所に於て第三回卒業證書授與式を執行せら　たるが當日卒業證書を得られたる女子は伊賀稻子、山川操子、山島歸子の三氏なりと云ふ。

○福田會惠愛部の啓建式　去る八日福田會惠愛部に於て啓建式を行ひ露照律師の香讃式脇田行順師啓建式の祝辭朗讀育兒總代の答辭等あり式終て三條公爵夫人、毛利公爵夫人、德川侯爵夫人の方々は育兒を呼寄せ菓子、二子木綿、花色木青梅線等の品々を惠與したり而して當日の參會者は毛利公侯、德川侯爵を始め無慮八百余人なりしと云ふ。

○豐田芙雄女　は伊國公使館に滯在中なるが近日歸途に就るよし來報あり。

○赤十字　クラ・パートン女史はジョンストンの洪水府其地に出張して看護救助に盡力せしが此頃に至り全く慈善を終りて歸宅せし由、其間に看護されたるもの二万人、救助されたる家族三千軒なりと。

○横濱禁酒會　にて去月催うされたる慈善音樂會は非常の好結果なりし由にて、僅々なる會員も其熱心篤ければ人を動かす如此く來奏せし多くの西洋人は無論義捐主義にて皆喜こび奏樂せしよし也今其の收金高を擧くれば切符賣上高一八九圓五〇錢有志寄附金三圓三〇錢合計一九二圓八〇錢にして出金額は廣告料九圓四二錢印刷代五圓三五錢外國音樂師へ謝狀料紙代七五錢三曲音樂師謝儀六圓二五錢和樂師謝儀四圓椅子借入料一二圓植木鉢借入料六〇錢人足賃一圓七八錢音樂師茶菓代六四錢郵便切手代一六錢委員車馬車代二圓三五錢金圓遞送料五〇錢決算廣告料及雜費七圓合計六二圓五五錢にして差引決算は左の如し。

收入金　一九二円、八〇　支出金　六二円、五五　差引殘金　一三〇円、〇〇

右を三分して和歌山、奈良、愛知三縣の水害罹災者へ送られたる由。

●新　誌

○天民　月一冊　八錢　本郷眞砂町天民社

天民は天則に類して一種古めけるもの也、其主旨は神儒佛三教に關する論說を登錄し專ぱら道德を講明論述し同胞を擧て斯道に由らしめ兼て道德の眞理をも得せしむるを目的とする由、道德の爲めには喜ぶべきものならん。

○日曜叢誌　月一回麻布森元町同社

聖公會を保護し先導し補助教育せんとの目的なる由なれども敢て同公會の機關となるにあらず又其保護を受るにも非ず主もクリスチヤンを性としカソリツクを名とし三位一體を全天地に讃美せしめんとを祈るものなる由。

○情實の病根

時事新報は三日の紙上に連載して歎息したり、日本の政府に情實行われ切るも斷つも離れがたきは、全く其月給格外に高く官爵例外に美にて所云る商賣の通則外に低價なる寶物あり之を懸望する買手の非常に多きが故也、左れば此情實の病根を除かんには區々たるの改革を行ふとも何の効なし、先づ晩より始めて當局者自身が大に俸給を減ずるか又は全く無給にして其族爵位階等も之を返上するも維新の當時に諸藩主が藩籍を奉還したるの例に倣ひ以て他諸官員の標準たるべし彼の廢藩の時も薩長其他の諸強藩主が率先したればこそ大事も成りたるとなれば今日とても政府の貴顯が先づ親しく先例を示すにあらざれば成功は望む可らずと、吾人も同論也。

○條約改正始末

兎角老人の講釋は吾々に面白きもの也、特に西洋〳〵との演說にも聞厭きたる今日は、維新前何の奉行が何如にして相談を初めしなどの昔し談し中々に面白し、時事新報記者が條約改止始末の味わひあるもの亦是のみ、國交際は文面に非ずして實力に在りと云ふと之は內治を先にして外國の交渉を后にすと關出たる改進黨員が兼てより承知致し居るべき者にあらずや。

○美術の奨勵保護

日々新聞にも美術論を見るに至れり、蓋し陛下が是眞翁に恩賜せられたるものあるに感激し、全社界が美術を優待する情の更に篤からんとを勸告するもの丶如し、之は在り來りの議論にして時事翁の如きも亦每々主張せられたるやうなれども、哲士は必らずしも之れを喜ばざるべし、總べて奨勵保護せられて成立つものは兎角其の奨勵者保護者の好尙に偏し本來獨立の壯氣に乏しきもの也、學術にせよ宗教にせよ、學者宗教者自身の熱心によらず、只だ外よりの奨勵保護に由りて隆んなる時には其宗教は多くは腐敗し學術は薄弱なるもの也、就中美術に於て然りとす、吾人は美術が眞實に熱心に有力に彼自ら獨立長步せんとを欲す、僅に他力に賴りて發達するを望まず、況んや之に貴族的虛飾的の臭氣を加へんとするに於てをや。

○東京灣築港三說

東京經濟雜誌に平易に分說したり、一に兩國川を利用するの說、二に兩國川の末流を閉鎖し上總港に放ち築地沿岸を用ゆるの說、第三はルノー氏が新案する所にて羽根田沖に前港を造り大森の海岸に沿ひ運河を海中に開鑿し芝浦に至り此處に船渠を堀造するに在りと。三說中尤も行れ易く且つ尤も確かなるはルノー氏の案なるべし、是吾人も亦同說也。

週報

○官令　三日勅令第百二十三號を以て陸軍乘馬飼養條例中改正の件同第百二十四號を以て交際官俸給并費用條例中改正の件を裁可せらる

○政治　三日の內閣會議には三條、大山、榎本、後藤の四大臣の外一人も參集せられざりし●德島縣平民高橋登三郎氏は東京府下に於て六ヶ月間政治の講談論議を禁止せらる●內務省土木局に於て開かれたる會計會議は去る二日議事決了せり●六日內閣會議に三條、山縣、山田、西鄕、大山、榎本六大臣參集せり●横濱市長增田知氏は去る五日突然辭表を提出せり●六日有栖川陸軍大將始め川上陸軍參謀次長等は大山陸軍大臣の官邸に參集して軍事會議を開きたり●去る九日元老院に於て民事訴訟法會議を開かる●八日嚶鳴社の諸士は淺草鷗遊館に於て政談演說會を開會せり

○外交　六日曼國公使は內外の貴顯十數名を招きて饗宴を開けり

○經濟　去る九日會計檢查院官吏及び大藏省出納局官吏立會の上紙幣五十七万七千七百餘圓を燒棄てらる

○文學　十日帝國大學文科教場に於て史學會を開會せり●學士會員諸氏去る八日上野公園學士會院に於て臨時會を開きたり

○教育　赤坂公立小學校は改築工事竣工したるを以て去る七日開校式を執行せり●八日帝國大學御雇教師コーメツト氏が日本中學の教育上に付き演說ありたり●府下の各私立小學校主は去る十日府廳に集合して協議會を開きたり

○美術　大日本國風音樂會にては去る八日日本橋區蛎殼町三丁目友樂館に於て演奏を催せり●明治美術會は去る七日日本橋區坂本町銀行集會所に於て總會を開き評議員を投票せり

○銀行　同盟銀行は去る四日坂本町銀行集會所に於て臨時會を開きたり●去る七日田尻銀行局長は日本銀行支店業務視察の爲め大坂に出張せり

○會社　甲信鐵道會社は去る三日株主總會を開けり●橫濱共同電燈會社は去る五日役員を撰擧せり●日本橋區小網町なる日本農益會社は解散したり●北陸鐵道は去る九日許可せらる

○雜誌　大坂府下の經世評論及び岡山縣下のスイドウフは去る六日解停せらる●讀賣新聞は去る七日發行停止を命ぜらる同日橫須賀の相陽民報も停止せらる

○雜報　舊幕の頃町名主たりし人々は八日上野新坂伊香溫泉に名主會を催ふしたり●公爵諸氏は去る七日上野公園華族會館に參集して協議會を開けり○藤田茂吉莊田平五郎の兩氏は八日歸朝せり●野州白根山は去る五日より突然噴火せり

●廢娼演說會筆記

佃與二郎

左の筆記二篇は去九日夜厚生館に於て演說せられたるものを速記せしもの也、翌十日島田君は靜岡に向つて發し、植木君は同日亦大坂に向つて出發せられ、本文は其早朝より印刷に附し只だ可成く迷に其概畧を讀者に示さんさ欲するが故に、遂に二氏の校正を請くる能はず、定めし多少の誤脫等あるべしさ思へり、若し夫れ其精密なるものに至ては他日餘の新聞雜誌上に載せらるべき筈なるを以て吾人は只だ其の梗概を示すに止まるさ云ふ。

第一席

○公娼の害

島田三郎

茲にお集まりになりましたる諸君、私は演說の主意並に此の協會へ御委賴になつたる手順を申上て、夫より本題に移らうさ思ひます。此の演說を開く所の手順並に私が承諾いたしたる手順をお話し申したいさ思ひますのは、先月の下旬の事で御座い升、上毛の青年會の方々がお出に成つて、上毛には一の運動がある、夫は外でも無い、娼樓を全廢するさ云ふとが、青年輩全縣下の輿論さなり居るが、之に付て若し足下が同意であるならば、其意見を公けにしてはドウかさ云ふとを望まれました。元來私は公娼を不可さするの持論で厶います、故に其議論たる人の參考になるさ云ふ上に於ては左程の効が無いにしろ、同意の方々が盡力するに當つて其演說を請われて私が辭するの道理が無さ信じて、一日群馬縣下に於て之さ同じき論題の演說を致したとが厶います、其時に於て私は尤も上毛の青年方の盡力の厚きに感じました。從來々々議論さして世の中に斯るためしあつたとは知つて居りますが事實に於て如此き大なる運動を爲したとは聞なかつた、特に私の信じて居る所に由りますれど、若き時は血氣未だ定まらず之を愼む色に在りさか、夫故に人の尤も誤まり易きは老年の時に非ずして青年の時に在ります、然るに今ま此の議論が老年社會に現はれずして青年社會に現われ、殆んど縣下を震動せしめたさ云ふは、尤も社會に取つて驚ろくべきの例であるさ思います。(拍手喝采)。

此事を私が感じましたのみならず、併せて私は此會よりして利益したるとがあります。嘗て私は議論上廢娼を主張した者であつたが、細かな統計を調べたとは無いです、然るに今ま上毛青年會の諸君が調べられた統計は、私に取つて大ひに益を與へたるとであります。其時の私の演說したるとは効があつたか無いか私し自らは信ずるとは出來ませんが、私は其表に據つて益々廢娼說に同意したさ云ふとは誰の前でも言わうさ思ひます。德孤ならず必らず隣ありさ云ふとがあり升が、斯樣な運動があれば、之が一局所に非常の感動を與へるもので、此の最幸時運に會しました、夫は何かさ云へば今月の初旬に矯風會の佐々木小島の兩夫人が參られて、近日之さ同樣の會を開くから、之に臨んでくれよさ申されました。其前に私の益友さ推尊する所の岩本君が私に此の事の相談がありました。然るに私は近來身躰の調和を失ひ、取分け眠られない症を患ひて居るから、一應辭退致しました。然るに倘ほ世の中の爲に是非さも此の演說を致さなければ成らぬさ云ふとに成りまして、遂に私も承諾いたしました。

夫には二つの理由が在るから、一寸さ申したいさ思ひます(謹聽々々)。近來政治上の働きが烈しくなつて、世人が政事上の問題にのみ止まる如くになつた、私し初め政事上の運動を起して居りますから、固より之に對して惡い感じを持つものではないが、一利あれば必らず一害ありて、政治上の議論には、あらゆる事に向つて必らず一議論に彼が同意すれば此が反對する樣に成り、虛心平氣に之を論じ去るとは眞に難いのであります。(ヒヤ〱)。此の會に付て私が小島佐々木兩夫人の事の次ぎに感じたのは、此事を植木枝盛君が快よく承諾されて、兩人で此の演說を爲すとを諾されたさ云ふとで厶います。勿論或問題に於ては、私は植木君さ意見を異にする者であります、又私は目下身躰の調和を失ひ、殊には眠られぬ症に懸つて居りますが、眞に斯樣なるとが世の中に現われて、其弊害を除き去らんさするに至つたさ云ふは、眞に喜こぶ可き徵候さ信じて、此席に罷り出でました所以であります。(喝采)。既に植木君さの意見の異なるは勿論意に介するに足らず、私に向つて同意致された耳か、快よく承諾せられたのは私に取つて千金の賜物であるから、一は植木君に謝し、又此の間に周旋せられたる諸君に謝さなければ成らないさ思ひます。

之より私は此の論題の範圍をキメて、議論の錯雜に渉らないやうにしたいさ思ひ升。

抑も公娼の事に付て先づ三つの上からして觀察するとが出來る、一は道德の點よりして觀察し、一は社會の點よりして觀察し、一は法律上の點よりして觀察するとが出來る。なれども私しの今日論ずるのは、法律並に風俗の點、即ち社會の點よりして或は歷史上或は古來の實例に徵して何如なるとが社會の爲に尤も害あるか利あるかを述べたいさ思ひ升。ソシテ道德のとは私しは言わぬ積です、夫は何如なる存娼論者も、道德上より宜しひさ云ふものは一人もない

（喝采）。道德上より惡いと云ふことは既に道理のお分りになつて居る諸君には述べるに足らぬことと存じます。　若し此の點よりして述べ初めたならば、私は時間の半ばを、之が爲に取られなければ成らぬから、只だ私は風俗慣習の上からして公娼の非なる所以を說かうと思い升。　斯く辨じますれば、簡短に議論を縮めることが出來る、世の中に成立つた害と云ふものは、世の中の進步と共に伴ふもので、何如の聖人でも、之を無くするは出來ない、如何なる法律を以ても之を絶滅することは出來ない、若し法律を以て之を絶滅するならば、即はち法律崇拜論者で、道德も輿論も又社會の裁制も入らないと云ふ眞に空論と云はれば成らぬ。道德から非難するのはヤヽ無用に屬し、法律で悉く賣淫を廢滅し得ると云ふも亦少しく誤解に屬します。私しのは左樣な主意にあらずして止を得ざる時に、政府が之を公けに認可するのは其の病を制するに足るものか減ずるに足るものかと云ふことを論斷したならば直ちに公娼の宜しいか惡ひかは分るであらうと思ひ升。夫に付て私は三つの制度を大畧論じて、此議論の下地を引うと思ひ升。歐羅巴に於ては、娼妓のやり方に三つある、一は法律上見止めて許可を與へるので、之は古來歐羅巴に此の制度が在り、大陸の上に於て尤も此の制度を細かく遣つて居るのは、フランスの中心たるパリーに於て行つて居る、又小國では白耳義に於て行つて居ります、故に此等諸國の人が法律で認可して居るを丁度我國の貸坐敷の如きで、白耳義のブラッセルで行つて居るからブラッセルの遣り方と申して居ります、其遣り方を見ると政府で許可を與へたと云ふ證を娼妓に與へるので、即はち二週間一週間ごと位に檢査を爲します、且つ一人づゝの賣婬と寄合つて致して居る賣婬との二種があるが早く言へば上等の娼妓と下等の娼妓とあつて、上等の者は二週間一回位ひに檢査されます、下等のはモツト嚴密にすることに成つて居るが、之は日耳義獨逸アタリに行はれて居るので、之をば第一の法方に致し升。

第二の法は英米諸國に於て尤も多く行はれて居る制度です、之は法律ではプロスチチウシヨンと云ふ者を禁じてはあるが、英米人實地の有樣は、物事に干涉しないと云ふ氣質が在つて、たとひ道路に惡ひものが在つても、警察官は之を見止めないで居る、之をば不干涉の制と云ひ升。斯の如き制度の下には法律上娼妓に罰金を科することがあつても更に減じないでは無い乎、ロンドンの如き繁華の地には、卑しむべきものが市中を徘徊するでは無い乎、元來人民の度合ひに於ては、其の何如に因て法律で見止めるとか見止めないとか云ふことが議論に爲るのだと云ふことを論じ英米の例を引て廢娼論に反對するものもあるが、之に付て見止めると見止めないとの違ひのことは私しは後段に至つて其結果の違ひを推論致さうと思ふ。

第三の法はレブレッセーブ、システムと申して、之は何如に譯したら宜しいか、假りに禁壓の法方とでも申しましやう、之は何如なる法方かと云ふに、外にも成立つて居るかも知れない、今ま諸君の前に公けにしても宜しいと思ふのは、大英島の一部なるスコットランドに於て之を遣つて居ります、尤も三四十年前には、ロンドンの如く殆んど不干涉の下に於て、妓館娼館とも云ふべきものが成立つて居つて、人々心を腦まし居つたと書いてあり升が、之は只今では押へ付けて、トウ／＼無くなつて仕舞ひました。此の場所は大英國の島の北に當る製造都會で、職工もあり之に準じて靑年の男子が澤山寄合つて居るが、妓館娼館は何如であらうか、現在は昔しより人口が餘程殖へたるにも係らず只今は之が無くなつたと云ふが、禁壓の効を奏したる一例であります。

以上三つある、隨つて我國の參考に成らうと云ふは、大陸に於て遣つて居ることだが、何如なる點に於て同じきか、將た異なるかは、此の議論を定めるに付て大ひに助けあらうと思ひ升。先づ私しはパリーのお話しを仕度い、フランスは警察の取締方が一番調のつて、英米よりも優つて居る位ひである故に娼妓には一定の規則があり、嚴重の規則であるが、其の遣り方と云ふは、何如なることかと云ふに、警視廳の内にビウロー、ド、モラール、之は道德局と譯すべきことだが、實際左樣でない、ブラックエルと云ふ婦人が、不道德の事を致して居る者を道德局とは可笑しいと申したが、ツマリ風俗局とでも譯すべく、汚ない者を取集め取締るものであります、之が何如するかと云へば、我國の人の目などより見れば、公娼と私娼との間だにあるものと思ひます、パリーの事情を讀みもし聞きもすれば、多く此の弊害が書いてありますが、之は風俗局に行くと其娼妓は十分に說諭し、一と度び身を誤まるものは終身汚れをそゝぐことが出來ないと云ふことを再三再四說諭します。然し最早爲すべき處ろの事を仕ないで、婦人自ら許可を與へて吳れと云ふのは、最早汚れた社會に陷つたものであるから、其事情を說く丈けで大抵は許可を與へなければ成らぬやうなものであると申すが、先づ願へば說諭があるやうです、扨て其名前を風俗局長が手元に書留めて秘密に爲し、何如なる人が見せて吳れと云ふても見せないやうに仕てある。故に之に付て奇談があるです、マアあいての男子が、惡ひ女と知らず正當なる手續によつて婚姻を結ぶことを約するやうなことがある、其時に或は氣の毒に思ふのか、無名の投書が何處からか來る、其婦人はかやう／＼の者だから、婚姻は不得策であると云ふやうなことを認めた無名の手紙が參るから、此の手紙に恐れて、風俗局に行つて問ひ質して見ても夫れは局長が公言はしない、「眞に其人が左樣な事を致したことが在るやも知れぬ」と云ふ位

に言ふて「保證は出來ぬ」と云ひます、元と此の記錄には、一々名前を載せて居ると言ふ丈けが風俗局長の精神であつて、何處までも之を秘密にすると云ふので、不躰裁の者を世の中に出さないやうにすると云ふ一の證據であらうと私しは思ふのでムります。然し英米諸國の人が見ると、佛蘭西は實になさけない有樣だと言つて、攻擊百端、フランスに於ても心ある人々は同じく之を歎いて居ります（拍手喝采）。

ソコデ私しが沿革を說いて見たいと言ふのは、我國の舊幕の如き制度は歐羅巴には無い、即はち純然たる人身賣買の制度であつた、之は奴隷を正しく見止め居つたる所ろのグリーキのソロンの立てた法と同じヿである。此の時分には苟くも止を得ない塲合に於ては、我身を賣買さるゝヿを以て少しも恥ぢざる所ろの世の中であつた、ソコデソロンは娼妓を以て一種の奴隷と見た相です、政府が女を奴隷に使うヿが無いから、夫より別に租稅を取るの法とし、即はち娼家公娼から出て來る所ろの者を租稅の一と立てゝあつた相です。之はグリーキに於て餘程以前の話しだが、舊幕の時代に於ては、隨分怪しからんヿであつて、若し人間を沒收するやうなヿがあると、之を何々に下さると云ふヿが在つたが、之を物品と同じに見たのは即はち人の賣買であつた證據です。此の人身賣買には尤も悪むべき二つのヿがあらうと思ひ升、男子の奴隷は田を耕やす如き、人々自由を制せられながらも其の自ら爲す所ろの仕業は矢張り人間の爲すべき所ろのヿを爲して居るのである、然るに娼妓は人身賣買と云ふ中でも、奴隷に爲つて働らく如きヿは無い、人間の尤も恥づべき所ろのヿを致して居るのである（ヒヤ〳〵）、故に人身賣買と云ふヿに付き、亞米利加に於て甚だ其悪むべきヿたるを知つたならば、舊幕時代の娼妓を見たるものは更に尤も其悪むべきものたるを知つたであらうと思ひます（拍手喝采）。然し乍ら人間と云ふものは不思儀のもので、見慣れると、一向怪しまないやうになる。文政時分の文人墨客などの書いたものを見ますと、多く遊廓のヿを記してある、丁度李白が大酒したのを美事と誤まり思つた位ひのもので、長く成立つた時は、人が其害たるヿを忘れ、其悪むべきを忘れるのであります、彼の有名なる戲作者、曲亭馬琴の名は後漢書から取つたとも申しますが、彼が若い時分に、クルワの馬コトと云ふかくしことばから取つたのであると云ふヿを、戲作のすじに精しい人から聞たヿがありますが、實に當時品行の正しき人であつたが、其でも尙其手に成つた著作を見れば、娼妓の事を言ふを恥かしひなどとは議論にも云わなかつたのみならず、勿論思想にも思はなかつたのであると見へます（拍手喝采）。其他を見れば、彼の有名なる京傳などが、公けの文書に奇怪のヿを現はしても當時更に怪しまなかつた。グリーキのソクラテスと云ふ人は、世界に名高き人で在るが、此人が娼妓に客に接するの術を數へたと云ふヿである、人の慣習と云ふものは實に不思儀の者で、ソロンが娼妓稅を政府の歲入とすると云ふの說や、又ソクラテスの如き人が娼妓に客に接するの術を數へた位ひであるから、文人墨客が書に之を避けないのみならず、之を以て文明の一美事位に思つて居たヿは更に奇しむに足らず更に驚ろくに足りないヿであります。

扨て御一新后には、何如に變じたかと云へば、明治六年と私は記臆いたしますが、ヒリウのマリヤルンの人が、支那人を載せて之をヒリウに運出し賣うとしたのを、支那人が苦腦に堪へず騷ぐから不得止我港に着かんとしたるを、我政府は其船が橫濱に這入るのは醜悪を行ふものを公然我領分の港に乘入るゝを不都合として、其奴隷を追拂つたヿがあるが、其時より國內に於て內國には尙ほ之より甚しきものが在ると云ふので、卒然として娼妓解放と云ふヿが起つた。ソコデ娼妓の歷史より見れば、明治六年に人身賣買の事柄は一種の弊悪の種類に成つたのです、事實に於ては斬く迄で變化は御座いませんが、其中に賣買に均しきヿはなくなり、少壯の中に獨立の思想も定まらないものを事情の困難なる有樣からでも無理に賣ると云ふヿは無なつた之を要するに人身賣買を不可とした政事上の一つの進步と評して宜しひと思ひ升（喝采）。

夫より以后如何なる制度の主義が這入つたかと云へば、茲に二つの主義が這入つた、舊幕の制度が尙ほ立つて居るうちに、私しの知つて居る所ろでは、今の松本良順君と聞て居りますが、悪毒傳染を防ぐの法が歐羅巴にあるが、之を日本に取つたらどうかと云ふヿで、松本君は陸軍の人だから遂に此の事柄が採用に成り、之に關する種々の器械などを取寄せるヿに相成つた、而して其事未だ行れざる中に於て、此事が引つゞき行れたと思ひまする證は、何れの制度からと云へば歐羅巴の大陸の制度、主もにフランスの制度が這入つて來たと思ひます。之が我國に大陸の事が行われ初めたるの第一着です。第二、警察に於ては如何にと云ふに、元の河路大警視氏は主もに佛蘭西の制度を取られたと承わつて居りましたが、成程どうも私しの思ふのは元來イギリスの制度アメリカの制度などは外國の人の目より見ると眞に見悪くゝもあり取にくゝもある、現に司法省でもフランス法を採られ、法典でもナポレンチン、コードを見習われた、盖し整頓した所ろのものが、取り易くもあり、又人の注意を引き易いから、警察の事に付ても多分其局の變革によつて色々改正がありましたらうが、大筋は此時にフランスの警察を取られてあるヿと思ひ升。之からして舊幕の制度が一變して今日の有樣になり、私しの契

約によつて娼妓を爲すとを公けに許すさ云へるとは、一は醫者から這入る梅毒法、一は警察より取締るとに由つて成立つとさなりましたが、之は共にフランスから來つたとであるさ云つても私は格別差支へは無いさ思ひ升。

此樣の工合に成つて居るが、之に付て私は歐羅巴の制度、中に就て佛蘭西、白耳義、英吉利などに於ける志士の批評されたるを述べ、尚は私しの意見をも述べたいさ思ひ升が、初に申した通り、道德の點よりするとは止めて、社會の上より論ずべしさ定めて置ましたから、先づ存娼論者の論ずる四の要點を擧て、私の批を述し得るや否やをキメたいさ思ひ升。

存娼論者さ云へども勿論道德の點、單純の考よりして見れば、其惡るひさ云ふをは分らうが、此事は左樣に簡短に論定すべきとでない、一害を除くさすれば亂つて他の一害の起るさ云ふとを觀察せねば成らぬ、其除かんさする害に比して今居起る所ろの弊害は大ひなるや否や夫をも觀察しなければ成らぬ、存娼論者は此等の事に由て見れば公娼さ云ふとは止を得んさ論局を結ぶのであります、其の細かい所ろは男女の慾は天性である、事實發せんさする地下の實熱を悉さく塞ぐやうなもので、若し之を塞ぐならば殘らずの火山を倒すやうな者、火山が若し悉さく地球上に無きならば、實熱にて此の地球は俄然破裂するかも知れない、今日に至る迄で幸に破裂しないのは、火山なるものが在つて夫に熱度が集まつて之を火口より吐出すから地球の安全を保つて居る、娼妓は恰かも之に似て居る、公けの娼妓を若し止めれば私通が多くなつて致し方がない、大變に困るさ云ふのが、廢娼論者の說く所ろであります。

第二の論據は何如なるとかさ云へば、公娼を廢すれば、之さ同じ割合に於て、算術に於てならば轉比例の如く、一つが減れば必らず一つが增す、即はち娼妓を止めさせたお割合に密賣淫が殖へるであらう、法律が娼妓を禁ずれば其の轉比例に於て密賣淫が殖れば如何する乎、左に廢すれば右に殘るさ云ふので、一向夫は無益であるさ云ふのが第二の理由であります。

第三は黴毒傳染さ云ふとである、公けの娼妓さすれば、當然試驗するとが出來、規則立つて試驗するとが出來る、若し一さ度で公許の制を打破れば、法律規則を以て之が檢黴をするとは出來ない、然らば眞に一國に大切のとで、斯しないさ、衛生の點が破れるさ云ふが第三の理由のやうに思ひ升。

此の三つよりして第四の理由を伴ない來る、此は貴ひ所ろの理由で、固より探るに足らざる所ろの者だが、惡る者を捕へるに大へん便利である、不正の金を取るさ直に遊興場に遊ぶとが通例の樣であれば、遊興場に於て之を捕へるとが容易く、大へんに便利である。此等の相ひ伴なつたる利益があるさ云ふ所ろから、以上の四つを以て金城鐵壁さして、存娼論者の籠城する所ろであり升(ヒヤ〳〵)。然し之は世間大數の人はソウは考へない、昔しから成立つて居るものだから、善いではないかさ云ふ類で、如此きは議論はないです、(ヒヤ〳〵ノウ〳〵)。

此の四つは効能は無いさ思ふ、慣習の力に委頼して事實の上の穿鑿を爲さらぬ方々の御議論であるざ私は思ひ升、(喝采)。若しも事實を穿鑿して、確かなる事實を擧ましたならば、社會學の一材料だが、世間一般の存娼論には之を出す丈けの力が無い、廢娼論者は之を採るに足らないさして內外の學術上の事實を有して居るから、諸君の前に於て其お話しを致さうさ思ひ升。

之は學理上より論じても、性質上より言つても、又現在の事實上より言ふても、現在此の通りであるさ言ふとを明言するでありましやう(謹聽々々)。

凡そ私通はあるが、私通の統計を擧るとは出來ない、之は學者の調べにも出來ない、之に伴なうて居る所ろの事實は總べて確さ出すとが出來なかつたが、之に付ては兩毛の有志家に向つては、私は自分で調べずして青年諸君が世に公けにされたるのを喜んで居ります。　我國近來に至る迄で、娼妓の無き所ろの土地は何處かさ云へば、鹿兒島、和歌山、岐阜、此の三つである、今ま殘つて居るのは和歌山のみである、セツト大切の善い材料が東京の近方にあるので、即はち埼玉縣です、埼玉縣のとは居に統計上のとも申しますが、即はち其の縣は妓樓さ云ふものは本庄、深谷、兩地方にのみ行われたさ云ふとです。近來之を許されたる岐阜鹿兒島等の、之を許さゞる文書に載つて居るを見るに、其私生の兒が公生の兒に對する割合は、他の公娼を許したる地方よりも更に少ないさ云ふとで、實に驚ろくべきの統計さ云はれば成りませぬ。今ま申す通り、私通さ申すものは、政府が如何に嚴微鏡を以て見ても、分らぬが、私通の決果さして現われ出づる私生兒の多少こそ即はち私通の多少を現わすバロメートルさ云つても宜しからう、其バロメートルが何を出すかさ云へば、即はち快晴を示して居るので、決してストーム、エザーでは無い、若しも彼論者に從つて、公けの娼妓を廢すれば、私通が多くなるさすれば、右の三縣には尤も多くならなければ成らない、然るに其決果は之に反對して、私生の少ないさ云ふものは第一の證明に十分澤山であるさ信じます(拍手喝采)。

之より私は第二の論點に進みます、即はち公けの娼妓を廢すれば賣淫が殖へるさ云ふも、之は法律が見止ないから統計は無い、古來人々が之を論じたる書に徵し、或は事實に鑑みるより外に仕方がないが、茲に一の確實なる證據を有して居る、

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

即はち此事を專門にした人の製したる調査を舉げる、パリー風俗局長の事を先刻申したが、先八百七十年間に、風俗局長の報告によれば、(今は此の風俗局長が勤めて居るのでないが)、此人が落膽の有樣をなして言ふたとがある、パリーの都に登記簿に載つて居る數が何如ふる數かと云ふて調べたのに、五年間の平均の報告に據れば大畧四千人と云ふのです、其公娼があつて始終アチラにうつり、コチラにうつり、公娼に成つたり密娼に成つたり、或は心を改めて正業に就くものもあるが、先づ五年間を平均して常に成立つものが四千人あつた、其四千人の者は何如なる有樣であるかと云ふのに、檢査の保撿附なるに委賴し、密娼の數が減じて在るかと云ふに左樣でない、其密娼の盛んなるとは實に驚ろくべき程で、此のラクール氏の調べによれば、登記簿に載つて居るのは僅か八分の一に過ないと云ふとであります、之が此事を專門にする人の報告でありますから、吾々が尤も信用を置くとの出來る調査であると信じます。全數の八分の一に過ないと言ひ、其外にまだ數千人あるであらうと書いてある。此事の一の報告に、公娼が密娼の勢を壓するか、密娼が公娼を壓するかと、切に歎息したる一二の人の話しがある。アンデルソント云ふスコツトランドの人で、二十年間パリーに住つて居つた人であるが、其人の話しに、パリーの大學に在る所ろのラテン町、此の町の一局部に大學があり、一局部に色々の遊び場などもあるが、書生は大概此のラテン街に住んで居ります、夫に出入する牛乳賣、洗濯屋と云ふものは大抵密賣淫である、夫故パリーに學生を置くのは同國の人自らが恐れて居る位ひであるが、之は公資が在れば密賣が無いと云ふ反對說を打破るべき一例になります。又テインと云ふ人は、フランスに於ても隨分名高く、屈指の人であり升が、イギリスに遊びまして、原文は佛蘭西文であるが之を英文に譯したる書物がある、此のテイン先生が遊歷中英國の學校の風の宜しひとに感服したとが書いてあつて、パリーの繁華の地に遊ぶ學生とは異なつて、イギリスのケムブリツヂに遊ぶ青年男女は殆んど其情を知らない位いのものだと云ふとが書いてある、此風俗を觀察したる其人の名聲は尤も重きもので、此人が英吉利の文學書を著わしたとき、他日氏は學士會員になるであらうと言われた位に信用のあつた人だが、此人が本國フランスを思ふの情があるならば、パリーの惡風を過大に言なし、イギリスの善所を過大に言做すやうなとは無いに違ひない、然るに之を言つて居る、左ればパリーに密娼の多いのは言わずして明らかだと思ひ升。尙は人間の性質上より、私は第三段に其考を言ましやうが、只今は先づ事實丈けのとです。

第三、梅毒が蔓延すると云ふと、之は就中大切のとで、尤も好く調べなければ成らぬ、只だ空に善とか惡とか云ふとの出來ないものであり升。(ヒヤ〳〵)然るに之が公娼の結果にして、ラクール氏が千八百六十八年に其の直轄内に於て公けの病院に入れた所謂る公娼、公娼に關係のもの男女打まぜて梅毒の患者が九千五百人あつた、即はち此數は他の諸種の患者の數に同じで、足を車に引れたものとか、眼の惡ひものとか、人間は四百四病の問題と言われる位ひなるに、殆んど其多くの病ひの數と同數であつて、九千五百人と云ふ夥しき數である、之に付て尙ほ觀察しなければ成らぬのは、此の病ひたるや人間あたり前の病氣として公けに示し見するとの出來にくい病ひである、故に實際は此數よりも更に幾層倍の多きであらうと思われる、故にラクール氏の報告に、之はパリーの患者の總數では無い、醫者に少しは緣故のあるものとか、又は密かに醫者に診察して貰うものとか云ふものをも合して算ふれば、盖し之より五倍であらうと言つた、然らば之を算用すれば四万七千人となるのです(寒笑啞笑)。之をも割合に公娼が果して斯樣なる害を防ぐと云ふか。扠て亦如何にしてかゝる患者を出すであらうか、之に付て附帶したる面白き話しが在るのです、パリーの尤も公娼贊成なるリアンチルと云ふ人が、苦情を唱へ、公娼があつて病毒試驗がある、夫でも蔓延すると云ふものは、之は何事か子細が無ては成らぬ、即はち警察が手ぬるひからであると言ふて、警察を攻擊したとがある、警察が見逃すからして病毒が蔓延したと云ふ小說を出した所ろが、之と同じとで各々の職分上では觀察も隨つて異なるものと見えて、ラクールと云ふ人は亦た左の如くに報告した、一年の間だに此土地に立つて居る病院に這入つた公娼が四千五百六十四名、之は帳簿の中につけて在る丈だが、其外に捕へて來て試驗しなければ成らぬ病院へ這らんければ成らぬと言ふやうにして或は罰金を科し、或は漸やくのとで入院せしめたるやうなものが、一万四千五百十四名ありました。シテ見ると警察が手ぬるひのでは無い、既に一万四千五百十四名を捕へた位ひであるから、之でも警察が手ぬるひとすれば、其處らにうろついて居るものを皆な捕へて入院させれば成らぬに至ります(喝采)。夫なれば何如に之が減るか殖るかと云へば、千八百六十九年に終つた五年間の報告は、公娼千人に付て百人九、九、第二期の五年間の報告は千人に付て百七十九人となりました、シテ見ると段々殖へる傾があつて、醫者が手ぬるひのでもなく、警察がゆるやかなのでも無くして、殖えて來たのを見ます、然らば何如にして公娼が密娼を防ぐとが出來るか、其の出來ぬと云ふとは之によりて明らかである。

第四の探偵と云ふとは古るい議論で、之は德川氏の時に左樣の議論が在つたのです、德川氏の古い文書を讀んだ方は御承知で御座いましやうが、若しも刑罪のト

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

があれば必らず之を探索して出すと云ふ一つの箇條が在つて營業を許されて居つた、業と德川氏の政治は探偵で以て遣つたので、諸侯を疑がひ諸士を疑がひ德川の制度一に探偵を以て治めたやうなものであつた、然し夫は昔しの事で、文明の世に娼妓を賴みて探偵をして貰らうと言ふやふでは、到底國事犯などを捕ふることは出來まいと思ひ升(喝采)。寧しろ私は公明正大なる手續によつて以て遣つた方が宜しひと思ひ升、若し長く探偵が必要である、其者が無ければ成らぬと云ふならば私は玆に明策を献じたいと思ひます(謹聽)。大抵泥棒と云ふものは皆なペクチをするものです、故に公然之を許したならば宜しからう、然し斯く惡るひことを許す法は無いと言つて贊成は無からうが、之は慣習の上から惡いと云ふのであらう、子供の時からメタチは惡るひと言ふことを聞て居るが公娼の惡いと云ふことに今迄ソウ聞かなかつたことであるのです。論者の理由は何如にも弱いもので、統計もありはしない、私し演說者も此の探偵のことは初めからノウ〳〵とさへ言つて夫でお仕舞にすれば宜しひと思ひます。(喝采)。

然れば議論が合わないやうに爲つて來る、何故へ合ないかなれば、前にも言つた通り、火山を防ぐときは地球が破裂する、地球の暴發を維持するが爲めに、火山が在ると云ふ理屈が玆にもありそうに思はれる、ダガよく〳〵其性質を尋ぬると、之は在つて居らないと云ふことは諸君の前に陳述することが出來ます。先づ人間に就てアホゲば即はち禍るものは何であるか、酒です、煙草です、男女の情も亦之と同じと私しは思ふ、若しも一方に置て遣つて宜しひと云ふことがあれば、一方に於て之を愼しむと云ふの念を薄らかにするは必然であると思い升。若し公娼が害では無いと云ふ道理が在らば密娼も亦た害では無いと自らは許すことが出來やうと思ふ、密娼が惡ひなれば公娼も惡ひ、決して惡娼が變じて善娼となつたと云ふ化學的の變化は無い、公けの事でも即はち道德のレストレイント(裁制)と云ふことになることはない、眞に私は此事を說明すに十分であると思ひ升、故に能く調べれば私の議論は空論でなくして人性に適したものであると云ふことを斷言することが出來る政府の統計年鑑を閉ひても娼妓は益々殖へて減するをなしと云ふは恰かも酒を飲み付ければ益々惡るくなり身を亡ぼすに至ると同じ性質の者であるのです。今ま若いものに付ての話しなれば、玆に田舍の學校地で、公けに其風俗が破れて居る所と破れない所ろとある、隨つて種々な遊ぶ所ろのと、亦見止める考も其土地に於て違つて居るのは此區畫に付て十分に觀察すべきの點であると思ひ升、今夫れ法律で見止めれば一つの決果が起る、第一、自ら制する爲めに婬惡が減するのだが、自ら制さないゆへに蔓延する、第二には非常の法律上の決果が起る、虛心平氣で考へて見れば、化學的變化ではなく、法律上で權利として此の商賣が成立つと云ふことに成るのです、殆んど學者の商賣も身を恥かしめる所ろの商賣も同じき權利と云はなければ成らぬ。昔しソロンが論じた比は女よりして政府に取る金に租稅と云ふ名も附かなかつたが、租稅を出せば吾は保護を受ると云ふの權利がある、彼れ既に保護を受るの權利があれば、我は之を保護しなければ成らぬやうに成るでは無いか、左すれば此議題は何れ何如なる時代に至つて地を掃ふに至りましやうか歎息の至りであります(喝采)。

慣習によつて其商業に心ゆきの進ふと云ふことは、確かのもので、イギリス人がメリーの風俗を評したる中に、フホーレン、ウーマン即はち墜落したる女とは英吉利國の娼妓密賣淫者などに當てはまるべき言葉で、佛蘭西のかゝる女には適當せぬと申しました、之は貧窮にして身の置き處ろなきか又は親なし子にして倚り處ろなきか零落して身を持ち崩したものか、夫等がイギリスでは娼妓に爲つて居る、其娼妓の度合より見てもイギリスの娼妓は眞に粗末である(之にも種々の類があるが取のけの例は議論に用ひずたゞ一般通情のものを申すのです)、然るにフランスの娼妓は之に反して、實に堂々たる有樣で、殆んど向ひ近づく可らず、風を切つて人を壓するやうなものが幾らもある、之は何かと云へば、大抵の貧苦を忍んで居るよりは寧ろ意張つて此の恥づべき營業を爲すのであるが、之は密娼を辱づかしめるよりも寧ろ法律にて之を認可するより、一の營業有權者として認められ存するからのことである、又た其義務として保護せらるべきものと云へば、人身の一の必要の分を盡して居るのであるから、揚々得色、濶步橫行して而も恥なきに至るのであります(大喝采)。

我國には娼妓藝妓何れも勇氣凛々で、之はグリシアあたりの例ならば在るかも知れないが、現在の歐羅巴には無い所ろのものであると思ふ、即はち一つの權利として揚々得色あるものは何かと言へば、神佛に名を署して物をさゝげて居る、(マサカに招魂社には出さぬが)、尙ほ新聞紙の報ずる所ろを聞けば、憲法發布の式を行つた時に、禮服を着て、白エリで、何れも列を致して出步るいたと云ふことであるが、此等は大典に列せんとして居つたるものでは無い乎、之は万國に無き例しで、昔しソロンが法を立てたとや、ソクラテスが娼妓に敎へたと云ふことはあるが、神佛にさゝげ物を爲し、大典に列しやうと思つたとは無からうと考へらる。

此等の結果が即はち、世の中の裁制を失なつたならばたとひ化學的の變化は無くとも物理的の變化位は起したと云ふことを證するのである、私は尙ほ實地に見た所ろを申さうと思ふ、本年八月シンガホウルに着きましたが、同地は本年二月より

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

初めて領事を置れたと云ふことで、領事はアメリカの領事館に居た人で私しの知己でありまするゆへに、日本人三人で之を尋れんとて、港に上り馬車を雇つた所ろ、羌比亞人にて、片言にフランス語とイギリス語とが分るから、日本の領事館に連れて行けと言つた所ろが、キタなき車に乗せて馬車を驅つて其地に着いたと言ふから、出やうとすると一種異様の境に出されて仕舞つた、即はち其處ろは日本の女が日本の風俗を爲して營業をして居る、之は領事館でないと言つても馬車夫には分りませぬから、其處に居つた巡査に告げて、やうやく道を知り町外れに着し領事館に行き中川と云ふ領事にあつたが、實に一驚を喫したことであると云つて中川氏に話した所ろが、此地は一月に初めて領事館を置れた位の所ろだから、小間物屋の如きもの二三人しか日本男子は居らぬのに、之に反し日本の女は二十人餘も在ると云ふことです、中川氏の話しに或る時領事同士が集會して申すには、日本の女の雄膽には驚ろくと云ふことを人より言われた相である、家にのみ在る婦人、遠方になど出掛けることのなき婦人が、よく出掛けて來る勇氣には感服したと冷評したに付て、中川氏は其答に困つたと言ふことである(慨歎〳〵〳〵、大喝采)。歐羅巴人でも娼妓が無いと云へば他方へ推出すことも知つて居りまするが、然し隱れて遣つて居る、之は自から恥ることを知つて居る、即はち密娼の結果であらうと思ふ、然るに公娼の結果は、揚々得色、晝夜現はれて居る、男すらも容易に行かぬやうな天外客地とも形容すべき所ろに迄で行くには、恥ると云ふ心を既に棄てゝ仕舞はなければ出來ないことと思ふ、況して日本人は殖民の慣習もない、外に出ては兎角内輪なのが女性の本性だのに、尚ほ如此なるは即はち公娼の結果である、公娼の爲に如此く性質を變じたのであると申しても宜しいと存じます(大喝采)。

事實は之れ丈けお話しゝたが、私は玆に適切なる例を持つて居るからお話しゝやうと思ふ、凡そ此等の問題を決するときは、慣習に目を暗らまされずして、社會に影響する所ろの決果を考へて、公平なる判斷を仕なければ成らぬと思ひ升(ヒヤ〳〵)。之は從來あるから可笑しくない、新らしいから可笑しいと言ふのは、達見の士の言ふべき所ろでない、即はち眼口を塞がれて居るものゝ言ふことである。舊幕の頃ろ毫も奇しまざりし所ろのものも、今日に於ては既に之を奇怪千万の事と思ふものがある、其の如く亦た今日慣習の爲めに之を奇しまぬ所ろのことも異日必らず世人一體が之に注意し得ることがあらう、之を諸國の歷史に照して見ても、又現在の改革から見ても其通りであると思ふ、彼のアメリカの奴隷は何如に、之は近代の歷史である。之より先き、米人に他を憫れむの情に深き性質があつても、黑奴丈けは至當のものと思つて見止め役使して居つたのである、然しジエフヘソンや、デビスや、リーの如き夫々非常なる熱信家、グラントにも一着優る如き名將が、之に盡力し遂に奴隷を廢止することと爲つたる跡より之を見れば其功績實に顯著なることであり、決局奴隷廢止となりたる今日に至つてハ何如がである乎、一般に皆な眞に奴隷が惡るかつたと言つて居る、米國の如き地にてすら數十年前迄も長く爲し來つたることは習慣の爲めに何とも思はざりしことにて、特に驚ろくべきは當時南部の說教師は、正しく奴隷の廢す可らざることを說教壇の上から演說したと云ふことは、南北戰爭記を讀むものゝ皆な知る所ろで、今日より見ればチカシキことであるが、其時には決してチカシク無つたのである、此事を虛心平氣で考へて見れば、乍まちに諒知し得らるゝことであるが、今の統計も虛心平氣で考へれバ成らぬ、習慣の爲に人の目を暗まされるやうなことなく、後來の日本の爲に十分なる計畫を爲されんことを熱望いたします(喝采)。

之に付て何如がである乎、バクチのことです、全く博奕は根絕やしすることが出來ない、碁により將棋によりて勝負を決する何處の國にも在ることだ、然し法律を以て禁じ、之を公然許すことは立法家は爲さない、人世免る可らざることだからとて娼妓を認可するならば、何故に賭博をも公然に認可せざる乎又權利として爲さしめざる乎と云ふの詰問を與へやうと思ふ、之に付て私しはモ一つ申しましやう、歐羅巴の一の小侯國がある、佛蘭西と伊太利の間のモナコ國と云ふて、獨立國と云ふほどでも無いが、兵隊が六十人あると云ふほどの國で、其國のプリンシパリテーとも云ふべきは、氣候が溫暖で、一體中開の體であるが、他國に類なき取除けのことがある、夫は何如なることかと云ふに、即はち公けの博智場があるので、何如なる者が集まるかと云へば、歐羅巴中の道樂者又はかやうのことを好むもの或は本國に於て之を爲し能わざるもの等が、モントカルローと云へる都に趣きて勝負を爭そひ、一日にして万金を失ふものもあれば、又千金を得るものもあり、斯る大博智の場所が此國に立つて居る爲に、年々死ぬ所ろの人、本國に歸られないで死ぬものが數十人あつて、爲めに死骸片付の役割迄があるのです、實に奇しむべきものだが、此の自殺の報告が出る每に歎息して獨立の體面を損しない爲に六十人の兵隊ある位ひの國だから、早くフランスか伊太利で之を止たら止まるだらうと言ふものがある、然し國の權利として苦情を言ふべきや否やは知らないが、此の事を公けに許すが爲めに社會の裁制を強めるか弱めるかと云ふことは、本題には好き適例であらうと思ひ升、何れの國に於ても博智は嚴刑に處してあるが、我國には死刑であつた、夫故に博智を惡むものは大ひにあり、公娼を惡むものは少ない。歐羅巴にては之に反し、カードを遣つて居るが船中などで慰さみに仕て居るのかと思ふと左樣でない即はち怪しからんことを遣て居る、旅をする間などには斯る惡習が多く行われるやうであり升が、之を公然に許すと云ふ國は無い、モナコ侯國の

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

如くに、斯迄財產をつぶし、身命を抛うつに至るものは少ない、之を社會の制裁と法律の制裁とが人の爲す可らざることを命じ示すからであらうと思ふ、此の制裁を存することは世の中に異なる結果を現わします。既に博智に明らかであるならば娼妓にはナゼ適用して試みない乎、當はめて更に不都合を見る所ろは無いではない乎。

吾人は之を論理的の問題であると云ふが、其證據を擧げます、明治八年白根多助君が埼玉に縣令たりし時、之を公けに許すのは氣分の惡いことと感じを起した、其時は、仲仙道の道線、並に日光の參詣道、陸羽街道の宿驛には在つたのです、其處で縣令白根多助君は、縣下の有力者若くは區長に私信を發して、縣下に稍や力ある人に諮問案を出し無名にて意見を呈せよと言送りしに、其時大抵は娼妓廢すべしと云ふ意見であつた、之が今ま何如なる結果を現わしたか、其結果は埼玉縣にお出になれば知れるが、私が聞く所によれば、埼玉縣の常置委員が、地方を巡廻しますから此の諮問の參考に尋れました處ろが、今に至つて元の公娼の在つた時よりは密娼が少ないと云ふ話しであります、之れ實に喜こばしきことであると思ひ升（喝采）。モ一つ埼玉縣會議員で、本庄の獨山本岡定雄氏からの手紙を得た、其人は醫者で檢黴員の一人である、而して氏は本庄に娼妓の在るのは惡ひと云ふことを述べられて居る、今日公娼を廢すると云ふことに盡力されて居ると云ふのは、是亦一層の考察すべきことである。前に於て既に廢したのです、然るに其后熊谷縣廢せられて埼玉縣に合併せられたる爲め其の二ヶ所に爾來よりは公娼の地が再たび出來て參りました、即はち本庄深谷の二宿である、然らば埼玉縣に新たなる公許の地が出來たのかと云へば左樣では無い、元より在る地で以前熊谷縣に屬し居りし時より許されて居つたので（尤も熊谷驛には無りしが）あるから、埼玉に新屬して其儘公娼の地と引續き相成つたのである、扨て此の公娼を許した地には密賣が無いかと云へバ即ハち在る、以前の熊谷驛には公娼は無つたが夫程に密賣淫が澤山だとも聞かぬ。然らば公娼は是非爲なければ成らぬと云ふは分らなくなる、玆に一つの經濟上の誤まりがある、東北鐵道などが追々延長せらるゝに付て宿驛の繁昌を助ける爲に娼妓を置たいと言ふのがある、現に昨年あつたと云ふことです、實に之は驚ろくべきことで、經濟の經濟たることは少しも無い話しで、如此きことは決して經濟に於て爲す可らずと云ふことは、他を損して其土地丈けを益するとは出來ない、其誤まつたる經濟論を持ち來つて、公娼の理由と爲すが如きは笑ふべきの至りであります（喝采）。

夫故に私は群馬縣に付て申したいと申すことは、血氣盛んなる時戒しむる色に在りと云ふのに、其壯年血氣の人々が千八百人斗り運動して遂に此事を遣つたのです、其當時に於て反對すべき理由は一つも無い、故に何如にも老人も贊成かも知れないが、社會の法律を以て之を許して在るのであるから、之を左樣に急激に廢することは出來ぬとでも申すのであらうが、此の如き結果は私しは群馬縣下には存すべき理由は無いと思ふので、法律の力を待たずに遂に鎖滅することが出來る位ひであらうと思ふ、必竟之を密に遣ると云ふことはあらうとも、公けに之を許すと云ふことを全く絶滅したいのである。

之に付てスコットランドの例を申します、グラスゴーには五十万以上の人口があつて、三十年以前には公けの娼妓がありて餘程に困つたのでありしが、遂に輿論は之を打破ることが出來て害を除き去ることが出來たのである、而て今日ではスコットランドに於ては政府が安心することを得るやうになつたのである、夫は何如なる譯かと云へば、私は善を惡にすることが出來ないやうに、法律を以て社會の害毒を破り去ると云ふことは出來ぬ、只夫れ其害惡の存するを許し且つ權利として存することを許すと云ふ以上は、亦義務として之を保護せれば成らぬ、私しは即はち之を惡むのであるから、種々なる處より之を破られれば成らぬと云ふのである。グラスゴーの弊に付て色々議論があつて、其中にマグダーレン、ホームと云ふものが出來、罪に陷いり世の人に戻る手段は無いと云ふやうなものを、再たび改悔し良民に立戻ると云ふやうに保護教育する所ろである、之が盡力と云ふものは實に夥たゞしきものである。又一つエヂンバラに於ては病院を建てタヾ療治して遣ると云ふので惡しき病氣を打消し毒患の廣く蔓延するを防ぎ世の中に再たび働かせるやうに病人を療やすことを仕ます。スコットランドの沿革にも書いてあるが、今ま世の中の人が尤も記臆すべきことは法律を固く守りて正路を踏み違へぬと云ふが肝要なるもので、元來法律に惡を以て善とし、又善を以て惡となすの力あるものとは思はない、只だ善惡に行くの方向を示すもので、示して社會の制裁が強くなるか弱くなるかと云ふことに付ては、私しは其の實際の勢力を認たむるものであります、故に人々が只だ制して行ふべきやうなる弊害をば法律が之を公認し世上の一權利として存せしむるやうにするは惡るいと云ふのが私しの持論であります。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

第二席

○廢娼の急務

植木枝盛

私は本題に移る前に、諸君に近來の出來事に付て之を表彰し、又私の希望する所ろの事を一應に陳述いたして置ねば成りませぬ。既に先刻以來島田君が御演說に成りましたことゆへ、私の陳述する所ろは重複することがあらうと思ひます、然し乍ら私しの議論は亦私し丈けに於て順序を立てた故に、重複に涉ることがあつても、之を避ることは出來ません、殊に私が表彰して置ねばならぬことは、諸君の固より知つて居ることだが、先頃群馬縣に於て娼妓公許を廢する所ろの建議說を持出されて幸にも縣會は之を可決いたし、其縣知事に向つて此の建議を呈出致されたことであります、(謹聽々々)。之は私し近來の出來事に就て尤も喜こぶ所ろのものであります、既に諸君が御承知に成つて居ることをも顧みず、私は社會全面に向つて表彰せれば成らぬことゝ思ひまする。之に付きて亦た東京府會に於ても或る所ろの議員は娼妓公許を廢する所ろの建議を持出されて、又或る議員は之を贊成されたことを承わつて居る、之に東京府會は何如なる決議をする乎、私しの知らない所ろであるが、東京府會に於て本年度に至る迄でには、未だ如此き建議說が無つたことゝ思ふ、今年之が初めて出でたなれば、之が何如なる結末になるや否やは分らないとして、先づ吾々の喜こばなければ成らないことゝ思ひます(大喝采)。又其他に於ても或は神奈川縣に於て、或は福井縣に於て、其他或る所ろの縣に於て此の公許を廢する所ろの建議說が出まして、或は京都、或は其他の所ろに於きましては、廢娼をすると云ふにはあらざるも、現在在る娼廓を移轉するの說がある、之は廢娼說と云ふに至らずと云へども、玆に至るの一の道行には違ひ無い、(ヒヤ／＼)。所ろを移すのは何故か、人口の盛んなる市街の凋密なる所ろに如此きもの丶あるは不都合の事であるゆへに、可成く之を社會の裏面に移さなければ成らないと云ふことを思ふて居るに相違ない、然れば此事も廢娼說に段々近よる所ろの一部分に在るに相違ない。此等のことは諸君の御承知あるに拘らず、社會全躰に向つて表彰せれば成らぬ事柄である、又た之を表彰すると共に只だ一言希望する所ろの事を述べなければならない、群馬縣に於ては縣會に於て既に建議說を可決しました、然らば群馬縣の行政官は議決に隨つて之を執行せられんことを希望して置なければ成らない、又其他の府縣會等に置まして、此如き說が出るなれば私の希望する所ろの事は、其縣會議事堂の內に在る所ろの人のみならず、此の社會に居りまする所ろの總躰の人が、之を贊成して其說に尤も勢力を得るに至らんことを希望するのである、之丈けの事が私しの本題に入るに先つて一言する所ろのものでありまする(謹聽／＼)。

又私しは只今論壇に登りまするに付きまして、暫らく言葉を發して置たいと思ふことが有ります、夫は何如なることかと言へば、此の廢娼論、娼妓公許を廢する所ろの論者諸君の面前に於て陳述するのであるが、之は何如なる順序を以て居るか、私は是迄、ドレ丈けの事があつて今日述べるかと云ふことである、私は何年何月よりして廢娼の意見を定めたのであつたか、只今之を思出すことは出來ない、餘程舊い塲合よりして、私の胸中には此丈けの考を持つて居つたに相違ない(ヒヤ／＼)、其中只今より指を屈するなれば、七八年或は八九年の以前であると思ひ升、其比ほひに英國人ヂヤタルアングと云ふ人などが組織したる所ろの一の連合躰より、日本の政府に居る諸公に一の書面を送られ、其の書面は、日本に於て娼妓公許を廢する方が善からうと云ふの書面であつた、其書面には余程精密な議論を書いてあつたので御坐い升が、之を其頃の新聞に報告したことがあつた、他の新聞にも出たか、知れないが、たしか當時の郵便報知新聞には反譯して出した、其中よりして私は報知新聞に譯出したる所ろのものを讀みました、其議論に私は餘程感服したことで、且つ何如なる感想を私しが發したかなれば、斯く日本人に非ざる所ろの、海外万里を隔つた所の外人が、我日本の政府に向つてまでも、之を願出する如此きもの迄もあるのに、日本の人が之丈けの議論を爲すものが殆んど一人も無い、政治家として之を論ずるものなどは一人もないと言ふのは、實に慨歎の極まりである、斯く日本人が社會の改良を計ることの熱心に薄いものであるかと云ふことの感慨を致しました(喝采)。然らば此說には余程の力を盡さなければ成らぬと云ふことで、各府縣下を私しが歩るくことが屢ばでありまして、斯る問題に當つては其說を述べ來つたが、別に其說を書面に綴りて社會に現わしたことは無つた、明治十九年の頃でありまする、今より三年前に當つて余は鄕里に在りまする所ろの一の小新聞紙上に此の議論を書いて以て十日計り論じたことがあつた、之は中央の都府に於て公けにしたと違ひ、世間に達することが薄かつたと云いまするが、其の論は十日許り致したのであつた、其后二十年度に至つて高知縣會に此の娼妓公許を廢するとの說を持出したのである、此塲合に於て一人の朋友は私しが議塲に於て陳述したる所ろを筆記して東京なる所ろの女學雜誌社に送つたのである、然るに此筆記を直ちに、女學雜誌は載せて社會に公けに致されたのである、之に付ては國民之友の德富君は其廢娼說を別に文章にして送れと云ふことを諭され望まれまして、亦其命に隨つて國民之友に送つたのである、之れ丈けが私しが今日に至る迄で、或は考へ、或は盡したる一端でありまする。(熱心々々)。

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

今夜此に至つたのは、東京に在る所ろの婦人矯風會諸君及び婦人白標倶樂部の諸君が私に命じて演壇に登らしめたのである、私は此問題に付きて如此き關係を持つて居るもので御坐います、今ま此れ丈けの事を陳述し了りましたることゆへ、之より本題に移らうとしますが、此論題は廢娼の急務と暫らく書きましたで御座います、今夜述る所ろのことは、急務だと言ふ丈けのことだから、只だ廢娼論の概畧で御座います。

私は昨今他の事件の爲に用事を帶て居ります、故に此問題に對して何如なる熱信の問題を有して居るに拘らず、十分に論旨を立てゝ論題に登るの暇がなかつた、（遺憾々々）。故に精細の議論をするのでなくして、概畧の議論を述べるのでありますが、只だ先刻以來島田君が此問題に付きて十分に御論述に成つたわけであるから、私は島田君の論述したことを賛成する意志を表するに止まります、又之を概畧に申さなければ不都合と云ふわけは、即はち私が論述する所ろのものが此の論題に付きて詳細なる議論であるとするならバ、若し之に反對する人が在つて、廢娼論と云ふものは夫丈しか議論が無いものかと云へバ、甚はだ不都合になるのです、故に私の論述することは概畧と云ふことは一言しなければ成らない。（滿腔の熱心を揮ふべし）。

此問題を論じまするには、吾々の議論が早く分るやうに仕まするには、其順序に據るよりも吾々に反對するものが、斯様の論だと云ふことを穿鑿する方が早道と思ひます、（然り々々謹聽々々）。

第一に於て娼妓公許を可とするは、何如なる點である乎、若し娼妓と云ふものを公けに許すと仕ないならバ、其公許が無いが爲めに、社會一般何處の處ろを撰ばずして、すみ々々に迄も、此婬風が盛んになるのである、何んとあれバ公許を致すならば、一と處ろに賣淫する處を限るのである、區畫を限つて許すから其淫風が一ヶ所に吹く、然し公許しなければ一ヶ所に區畫を定めることが出來ないから淫風が到る處ろに盛んになる、斯く相成ることは社會の爲に厭ふべきことである、如此き譯なれば、寧ろ此の娼妓即はち賣淫者と云ふものは、公けに許すと云ふの法則を採つて一定の處ろに區畫を定めて能く取締を仕なければ成らぬと云ふの說である。此の說と云ふものは何如にも至當なる處ろの說でありましやうが、至當なると云ふことを論斷することが出來にくい、凡そ人間と云ふものは日常眼に見ること、耳に聞くこと、かようなるものが益々精神に盛んに感ずる所ろのものとなる、之は心理學上に於て動かす可らざる所ろの定義であります、然るに今ま娼妓と云ふものを公許して居る、公けに致して社會に存在せしめてあると云ふならば、社會に在る人が日常眼こに見るのである、日常耳に聞くのである、之を耳に聞き眼こに見るなれバ、之を見るよりして精神に移し、之を聞くよりして腦髓に移して、いつの間にか社會の人々の腦髓中に城廓を築くことになる（ヒヤ々々）、如此なれば城廓と云ふものゝある爲に、社會一般に此の淫風と云ふものを隆んに致させると云ふの決果を來さしめるのである（ヒヤ々々）。此の感慨を申しまするなれば、公けに許して一定の場所をこしらへ、今ま東京で申せば、彼の芳原とか洲崎とか云ふものを設けるのは、恰かも其場所は淫風を制する所ろの場所、淫風のガスを製する所の場所と言はなければ成らない（拍手喝采）。其淫風を製造する場所からして、先づ東京より言へば、其一般のガスを移して其ガスより淫風を隆んに蔓延せしむるのである（ノウ々々、ヒヤ々々）、如此きことであれバ、公許を致して場所を限つて置くならば、社會一般に淫風の行はれることを防ぎて、淫風を減ずるに足りる所ろの一つの考と云ふものは、事實の上から當らざる所ろの考であると云ふの、論斷を下すのであり升。（ノウ々々、ヒヤ々々）。

反對論者の第二の說と云ふものは、公許を致すなれば、よく取締が着くのである、取締が附けば其賣淫者に對して梅毒を檢査致すのである、公許を致さずして密賣が盛んに行われるなれば、此の惡毒を檢査する所ろの道が無い、之れ社會に在る所ろの人が、益々惡毒に感染することになる、之が衞生を重んずる上に於て決して忽かせにいたすことの出來ないと云ふ說である、今ま此日本であつても、又外で御座いましても、公許を加擔する論者の唱へて金城鐵壁とする所ろは、此の惡徳を檢査して人が惡徳に掛らないやうにする一端で御座いましやう、之が公許を可とする所ろの論者の金城鐵壁である（ノウ々々）ノウなれば何如なる　が在るか承わりましやう（ノウ々々）梅毒檢査と云ふことが何如かであるかと云ふことを先づ精密に考へなければ爲らない、たとひ社會に公許して在つても、其傍わらには更に密賣淫も在るのである、今ま何處を見ましても、公許して在る處ろに密賣が行われないと云ふことは無いのです、反つて公許して在る處ろに餘計に在る位ひです、然らばたとひ取締檢査をすることが在るとしても、決して社會一般に對して其害毒を防ぎ盡すことは出來ないのであり升。之が一つ其の檢査と此の事柄は力の薄い論であるのです、又事實上に於て今ま檢査を致すと云ふことが在りましても、矢張り其遊廓に參りまするものは矢張り梅毒に感染することがある、今ま東京でも其他の地方に於ても、書生や其外の人が醫者に參つて梅毒の診察を乞ふものが何の位あるか（ヒヤ々々）、然らバたとひ檢査があつても梅毒を防ぐことは出來ないと云ふは顯然たることであります（拍手喝采）。

第三には何如云ふことがある乎、政府が此の梅毒を檢査すると云ふ處ろの一つの責任を持つて居りましたならバ、遊廓に通ふ所ろのものは、何如なる心持を致すか

其梅毒を豫防して在るから既に撿査と云ふものがある、其撿査は梅毒を感染せしめざる處ろの一の保證物である（ヒヤ〳〵、ノウ〳〵）。遊廓に通ふと云ふと云へども、此の悪病に感染することは無い、心配することは無いと心得まして、ます〳〵之を雜やむものが殖えて參ります、又此の結果より考へ見れば、或は撿査と云ふことがある爲に、世の人々がいよ〳〵安心して其の安心よりして病毒を受ることが餘計に成るかも知れない、（喝采）。既に餘計に爲ると論斷した人が世に幾らもあるので御座い升。

其次に政府と云ふものが撿査と云ふことを仕なければ成らない職務を持つて居るや否やと云ふことである、私の考へまする所によれば、如此き所ろの職務と云ふものは、政府が必しも之を致さなくても政府の本分と云ふものは盡して參ると思ふのである。然らざれば風俗の惡くなると云ふことを恐はないものになります、（ヒヤ〳〵）、之を精しく論じますれば、自づから政治上の問題になるから精しくは申さないが、政府は梅毒を防ぎて世の遊野郎の爲に仕なければ成らぬと云ふ職分を持つて居りは仕ないのでありましやう（大喝采）。

其次の箇條は何かと云へば、此の撿査と云ふことは、其撿査を受る所ろのものをして、恥を知るの感情を失なはしめるのである、凡そ人として他人に見す可らざる所ろのもの……隱すべき所ろのものを隱すのが人間の恥を保つて居るのであります、撿査を致すと云ふことは、人が恥を知つて居ると云ふ其者の恥づる心を撲滅する手段では無いかと思ふ（喝采）、此事柄が有りまするなれバ、之を受る所ろのものは隨つて恥を忘れるに至るであらうと云ふことは、私しの考へる所ろであります。

此の五の關係から考へまするなれバ、撿査をすると云ふことハ、たとひ夫に幾干かの利益があるとしても、此全躰の關係から論斷を來した時に、小利益がある爲めにとて之を採用することが出來ないのである。

第三には何如なる問題か、此の廢娼と云ふことは目的の行なへないと云ふ説であります、此の行なはれないと云ふのは、何如なることを申すかなれば、今ま公許して在る所ろの娼妓を廢すれば、之を廢するに隨つて、他の密賣世に地獄と唱ふるものがます〳〵増加するであらう、斯く相成るなれば、決して廢娼と云ふ目的は行はれないのでは無いかと云ふ反對説であります、此説は娼妓公許を廢すると云ふ精神に少しも貫徹を致さない説である、此一の問題が起れバ公許すると云ふと秘密にすると云ふの利害を考へて見なければならぬ。第一には公けに許されて此の賣淫を致しまする以前は、其賣淫をする所ろのものが、恥を知らない所ろのものであるのであり升、然るに秘密の商法をするなれバ、道德の上に於て同じく惡るいと云ふには相違ないが、尙ほ秘密と云ふが爲めに、恥づる所ろを知り拔いて居ると思ふことが秘密と否との間に相違があらうと思ふ、之を對照の第一ヶ條といたします。第二ヶ條は公許して、夫に寄つて商賣すれバ、娼妓たる所ろのものが、何如なる結果を得る乎、たとひ其現状を蹈めて別の所ろに移つて他の良民として外の營業を仕やうと思ふても、若し其社會が賣淫と云ふことを惡む處ろの社會となりますれバ、決して良民と齒ひするの出來ないものとなる、今日となる迄で日本の社會に於て賣淫を賤しむものが薄いからして初め他の娼廓へ這入つて居つたものを、其を擯斥する所ろのものが甚しく無いから稍もすれば娼廓へ這入つたものでも、良民の細君となることもある、ナレども之が今日迄で社會に曖昧社會に殘つたからして出來た決果であるのです（喝采）、社會が進むなれバ決して出來ないのである（大贊成）、然れバ公許によつて賣淫したものが一と度び彼の地に陷りしものも亦た良民に嫁することは出來ない、殆んど畜類同樣のものとなるのである、實に恐れむべきでは有ませんか實に私等は氣の毒に思ふです又秘密に賣淫するなれバ之をも惡いには相違ないが、社會の人は賣淫して居たか居ないかは社會の人は知らない、夫と相對して賣淫したものは知つて居るが亦た社會の人は知らない、何故なれバ秘密だからであり升（ヒヤ〳〵）。社會の人が知らないなれバ、其社會に出て良民に爲つたなれバ、他と齒ひが出來るか出來ないか、之が公許と密娼と對照して相違の點であります。又第三には、公許してあつて彼等が營業するなれバ斯る結果を起します、政府と云ふものが格別惡るいこととしないから、之を公けに許すので（悲しむべし〳〵）、如此き感想を追々后に生れるものに懷かせるのである（ヒヤ〳〵）特に上の好む所ろ下之より甚しきはなしと云ふ、政府を信ずる人民の餘計に在る點では、いよ〳〵如此き感想を懷く所ろとなるのであります、（喝采）、政府でさへも公けに之を許して在る、然らバ人間としてどう云ふ事があつても、爲す可らざるものでは無い、惡ひことでは無いと感想する、若し斯く感想することがあれバ自づから人をして賣淫の地位に奬勵する迄にはならないでも、幾分か箇樣なる傾を持ちます、（謹聽）若し密賣丈があるなれバ、如此き感想を世の人が抱くことは無い、之は公許と密賣と對照して論ずる所ろの相違の又の一點であります。其次は公許を致して居るならバ、既に公許したのであるから之を撲滅しやうと云ふことは生じて來ない、公許するのが極度に至つて居るから、更に消滅することは無い、然るに密賣と云ふものであるなれバ、密賣が在つて困る、困ると云へバ困ると云ふものが出る度に之を撲滅しやうと云ふものが出て來る、如此きものゝないやうに仕樣と考へることが起つて來る、然るに公許するからには之を撲滅しやうと云ふ考は起らない（拍手喝采）、秘密にする時は、百人あるとしても善き方法を用ひて十人に爲すことも出來、十人にあれバ一人に爲す、遂には世の中に賣淫は無いと云ふに至らしめる、此の道を計るのであります、之れが密賣公許對照の相違の點である。次ぎに公許して居れバ社會の表面上に賣淫物が一の元素とな

つて存在すると云ふヿである、秘密なれバ之が無い、今ま社會の裏面を見れバ、左様言ふものがあつたとしても、表面から言ふときは、無いと言ふても宜しひのである、(喝采)。社會の表面の名譽と云ふものは何れほどに迄ふか、社會の表面に如此きものゝあるのは、余程に社會の表面をキタなくするものである、又社會の表面のみに在るなれバ、在るヿは在るに相違ないでも、表面丈けも奇麗です、之が相違の一箇條であります、(喝采)。

此通り密賣と公許と對照した處で、どうしても公許するヿは宜しくない、密賣も宜しくないが公許するに比すれバ少し位は其方が宜しひと云ふのである、公許があれバ密賣が行はれないと云ふヿは決して私などの受取るヿの出來ない、言わバマトの外れた議論と云はなけれバ成らない。

第四に反對者の申す處ろの言は、今ま賣淫を營業するものが澤山ある、之をも今ま一朝に公許を廢するなれバ、其現在の營業によつて生活するものが俄に糊口の道を失ふと云ふの心配であります、之は誠に心切なる心配であるが、然れども世の中に於て一の改革を行ふに當つては、其改革は何方の方に向つても利があつて害がないと云ふヿは申されません(喝采)、鐵道を開くが爲めに人力車が迷惑すると云ふても之はイケない、(ヒヤ〳〵)、機械を造くり一方に於て手仕事を仕て糊口を仕たものは困つても、文明を進むるが爲には、何如に大なる機械をも發明して行かなければならない、改革と云ふ以上は或る一部分に於ては迷惑をするのは當然のヿである、夫があれバこそ一の改革と云ふ名がつくのである、若し夫が無いならバ改革と云ふ直打は無いと云ふ(大喝采)、左れバ或る所ろのものが營業を失ふの、工業を失ふのと言ふやうなヿが心切であるかは知れないが、實際社會の總体に對しては決して心切にあらずして一部分に對しての心切であります、(喝采)、如此き心切は私しは採用するヿは出來ない。

先づ公許を廢すると云ふ議論に對して反對を致すものが唱へる言葉を開げバ、只今まで述べましたる四の箇條が主なる點である、第一は公許を廢したなれバ密賣が殖へると云ふヿ、第二は梅毒の檢査を行ふヿが出來ないで病毒ます〳〵蔓延すると云ふ事、第三は目的を達しない、公許を廢しても廢娼の目的を達しないと云ふヿ、第四は現在の營業者たるものが營業の途を失なひて糊口の道を誤まると云ふ箇條がある、その四箇條は吾々に反對を致す所ろのもの丶好んで唱へる所ろ、亦常に論する所ろでありますが、此丈の申分は私しは相立たざる所ろの申分であると云ふの斷定を下さうと思ふ、而して吾々は公許すと申す所ろの事柄、單に其事柄から之を考へるも、或は賣婦者其者よりして考るも、或は社會の外面よりして考へるも、道德の上より、政治の上より種々雜多に考へても、未だ公許を廢するヿが惡るい、公許を廢しては宜しくないと云ふ論點を見出すヿが出來ないのであります。

然れバ此の結局に近づきました所ろに於て、少しく申したいと云ふヿは、第一に公許を廢すると云ふヿと賣婦撲滅すると云ふ議論とは區域の違ふと云ふヿであります、賣婬と云ふものを社會の裏面よりも表面よりも總べて撲滅するヿは餘程大いなる事業であつて、之は世の道德が高まり、社會改良家を以て任ずる所ろのものを以ていつ迄も成さなければ成らぬものである、之が公許を廢すると云ふ論點に至つては、たとひ裏面に於て賣婦が未だ撲滅して仕舞わないと云ふヿが、見えすいても宜しひ、夫でも公許を廢止しやうと云ふの議論で御座います、故に玆に區域を申さなければ、公許は惡ひが、見せないならバ宜しひと云ふやうな考を懷く人が一人でもあつたならバ（ナイ〳〵）不都合で御座ります、然れバ結局に當つて今暫らく申上ようと思ものは此の議論であります、賣婦の問題であれば、吾々は盟つていつ迄も目的を遂しやうと思ふものであるが、未だ吾々の力が薄くして、此の目的を即時に達するヿは出來ないと云ふヿがありましたなれバ、其目的を遂しない間だは、何如であるか、よし即時に其目的を遂しないヿがあつても、賣婦を廢止する主義の爲には吾々は少しも動くことなくして勉めなければならぬと思ふ、主義の爲に盡すと云ふヿ丈けは盟つて之に居りたいと云ひ升。たとひ娼妓を廢する所ろの政治を明日行ふヿが出來ずとも、今夜から明日にかけてでも、若くはアト〳〵に掛てでも、賣婦廢止の主義を以て居らなければ成らぬと云ふのです之が即時に行われないと云ふて、賣婬の主義の爲に盡すヿを薄くしては成らぬのである(喝采)。

諸君、此の會場に集まられたる男子諸君、男子にして公許を廢するヿが出來ないと云ふやうなヿを申されるならバ、實に男子に取つて大ひなる恥ぢでは御座いませんか(大喝采)男子其人であり乍ら出來ぬと云ふならバ、男子は道德を守るヿの出來ない動物と云はなければ成らない(大喝采)。

婦人諸君、若し之を廢するヿが出來ないと云ふやうな婦人がありましたならバ、婦人は道德を守るヿの出來ない、公許を恥とする考を持つ事の出來ない動物と斷定しなければなりません。諸君、男子諸君、女子諸君、如此き恥辱を受るを以て自ら甘しとせらるゝ乎、此の會堂に集まられたる諸君は、毫も如此きものであるとは信じない、然らバ世の中にある所ろの立法者、世の中にある所の政治者、道德者、又は總ての改良を以て任ずる人々は、たとひ即時に行われるヿは行わるゝとも行われないヿがあるとも、左樣の事に係はらず廢娼の主義を世の中に擴張して、全勝を得せしむるヿを期せしめたならバ如何ん、(喝采)諸君にして之に進むものなれバ、我は力薄しと雖へども、諸君の前に、諸君と共に、此の力を盡すヿを盟うものである(大喝采)。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

Digitized by Google

Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

女學雜誌

女學雜誌廣告の文

女學雜誌と云ふ雜誌は、總べて女の心得に成るとを書きたる者にて、娘の爲めには學問の仕方より身のたしなみ方、朋友への交はり方、親への仕へ方などを細かに敎え、妻の爲めには家の修め方より料理ぬひ針下女の使ひ方を初めとし、良人へ對する心得、姑舅へ對する心得、兄弟へ對する心得に至る迄を鄭寧に敎え、母の爲めには姙娠中の愼しみ方、產前產后の用心、子供の育て方、敎育の道理などを綿密に敎え、其上世の中の有樣は何如がにて之に對する女の心得は何如ん、世上の女は何如やうに開化し、女の風俗流行は何如樣に變るかの事より、大なるは愛子良人の一身尤關はる世の大變を初め、小さきは物の直段の高下、品物の有り無し、雇人有無の景况に至る迄で、凡そ一國人とし、一女子として心得置ねば成らぬくさ〴〵の事を、減さず落さず、極く分るやうに書列ねたるもの也。

巖本善治著

妓樓全廢

近刊一小冊

右は兼て女學雜誌に掲載したる妓樓全廢論數篇中の尤も有力なる者を拔き便利なる一小冊に編みたるもの也一部五錢と定むれども多數を需めらるゝ時は特別に取扱ふべく亦た必らずしも價を受けず呈送するともあるべし

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY